

# 提言を踏まえた取組みの実施状況(報告)

---

令和8年3月  
政策統括官付



- 令和5年6月、「人・ロボットの移動円滑化のための歩行空間DX研究会」、「歩行空間の移動円滑化データWG」、「歩行空間の3次元地図WG」を設置。
- 現地実証等を踏まえた検討結果を、整備仕様の改定やオープンデータ化を支援するためのデータプラットフォーム(ほこナビDP)へ反映し、全国各地域への普及・展開を図る。

## 歩行空間DX研究会



- 〈活動内容〉
1. シンポジウムの開催(年1回)
  2. 広報活動(通年)
  3. その他(講習会の開催など)

研究会の活動を通じて、

- ・ 本施策や本施策に関連する情報を広く周知
- ・ 人的・組織的なネットワークを拡大

検討状況や成果等を情報提供・フィードバック

## ワーキンググループ

- 歩行空間の移動円滑化データワーキンググループ
- 歩行空間の3次元地図ワーキンググループ

実証実験等を踏まえたWGでの検討結果を、ほこナビDPの機能拡充や、整備仕様等へ反映。

検討成果の反映(機能拡充等)・フィードバック

## ほこナビDP



- 〈目指す拡充機能〉
- 3次元地図整備システム
    - ・ 3次元地図統合機能
  - 歩行空間NWデータ整備システム
    - ・ NWデータ整備・管理・更新機能
    - ・ 市民等からの現地情報報告等機能
  - バリアフリー施設等データ整備システム
    - ・ 施設データ整備・管理・更新機能
    - ・ 市民参加等も可能なデータ整備・更新機能
- データの整備・管理・更新・オープンデータ化の支援ツールとして提供(予定)。

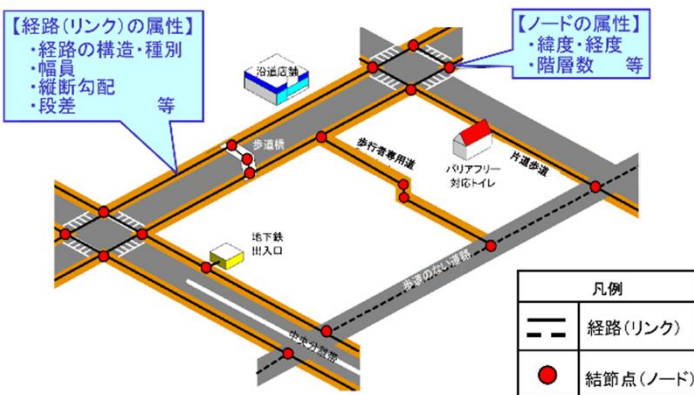
# 整備するデータの種類

歩行空間ネットワークデータ、バリアフリー施設等データ、歩行空間の3次元地図について、ほこナビDPを活用したデータ整備・更新・オープンデータ化を促し、これらのデータを活用したサービスが全国各地で展開される状況を目指す。

## 歩行空間ネットワークデータ

歩行空間の形状に合わせて配置するノード“点”とリンク“線”に対して、バリアフリーに関する情報等を付与したデータ。

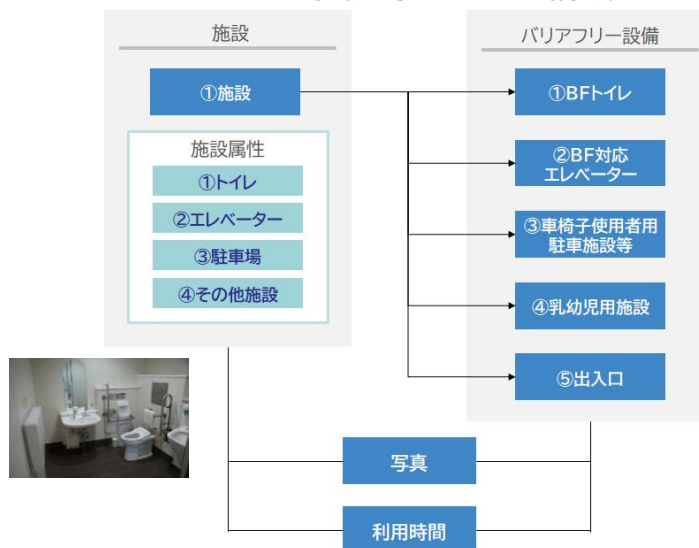
歩行空間ネットワークデータ



## バリアフリー施設等データ

「施設」、「バリアフリー設備」の2種類のデータで構成され、それぞれの位置情報やバリアフリー情報等を含むデータ。バリアフリー設備にはトイレ・エレベーター・駐車場・乳幼児用施設・出入口の情報を含む。

バリアフリー施設等データの構成



## 歩行空間の3次元地図

ハンディ型LiDAR等で取得した歩行空間の3次元点群データを図化したもの



3次元点群データ



自動配送ロボット

- 令和5年6月に設置した「歩行空間の移動円滑化データWG」と「歩行空間の3次元地図WG」で議論してきた技術検討の内容については、概ね方向性が見えてきている。
- 令和7年度からは、技術検討フェーズでの成果を活用し、本施策の全国的な展開及び普及に向け、全国各地域において各種データ(歩行空間ネットワークデータ・バリアフリー施設等データ・歩行空間の3次元地図等)の整備・更新・オープンデータ化・利活用を促進するためのデータ整備等の方針や各地域における取組の際の運用方針、取組事例拡大に向けた戦略等について検討を実施。

## 技術検討フェーズ (令和5年度～令和6年度)

### WG体制

歩行空間の移動円滑化  
データワーキンググループ

歩行空間の3次元地図  
ワーキンググループ

## 普及促進検討フェーズ (令和7年度～)

### WG体制

歩行空間の移動支援に係る  
データのオープンデータ化・  
利活用促進WG

(有識者、自治体、民間事業者により構成)

全国展開へ

## 歩行空間DX研究会(令和5年度～)

シンポジウムの開催、広報活動、会員向けメーリングリスト等のサービス提供等





## 「歩行空間における移動支援サービスのDXによる普及・高度化の実現」に向けた提言概要

2023年3月

**第1章 はじめに** ・前回提言以降の取組や最近の情勢などを踏まえた上で、本施策が今後取り組むべき課題やその方向性について再整理するとともに、新たな提言をとりまとめ

### 第2章 これまでの取組成果と課題

(1) ガイドライン作成による自治体への展開  
・自治体向けガイドライン、手引きの作成と展開

(2) オープンデータ化促進

・歩行空間ネットワークデータなどを誰もがオープンデータ化できる仕組みとしてデータサイトを開設  
・各施設管理者は公共事業者へ働きかけたり、現地実証やイベントなどの機会を利用したりすることでデータサイトのデータ充実化

(3) 低コスト化のための技術開発

・各種データの整備促進のため、データの整備仕様を定めるとともに、誰もが簡単にデータを作成できる整備ツールなどを提供

(4) さらなる発展的な取組

・多様な主体の参加によるデータ整備促進などに向けて、「通れたマップ」の検証、教育機関との連携、自動走行ロボットとの連携、アイデアコンテストを実施

#### <主な課題>

- 施設データ、歩行空間ネットワークデータ、バリアフリーデータのオープンデータ化が全国的に不十分  
⇒データ整備・更新の技術面や費用面、労力面に関する課題が大きい可能性  
⇒自治体や施設管理者にとって優先順位を決める際のバリアフリーの訴求力が未だ弱く、本施策への理解が不十分
- 各種施設データのデータ形式・フォーマットが、施設管理者などによってばらつきがあるとともに、データ更新が未実施
- データサイトについて、1つ1つ手動でダウンロードする必要があるなど、使い勝手の観点から改善の余地あり
- 平時以外、例えば災害時などの重要な場面における障害者の移動支援サービスに必要なデータの整備が不足
- さらなるデータ整備仕様や整備ツールの改良、工夫などによる簡易化、簡素化、低コスト化が必要

### 第3章 歩行者移動支援に関わる周辺環境の変化、技術の発展

(1) 自動走行ロボットの登場

・物流業界の省人化対応などの観点から、ロボットによる配送ニーズが急増し、国内外で実証が進展  
・我が国では2022年4月に道路交通法が改正され、今後、自動配送ロボットが歩道を走行可能  
・自動走行ロボットを活用したビジネスへの参入を表明、もしくは参入を検討しているスタートアップ企業も増加しつつあり、今後の新たなビジネス分野としての展開が期待

(2) 3次元データの収集・処理技術の進展

・自動運転や測量におけるバックパック型やドローン搭載型レーザーキャナやスマートフォン搭載LIDARなど、点群データ収集センサーの開発・普及のほか、膨大なデータの処理技術やAI解析技術が進展

(3) データの高度化・多様化

・BIM/CIMやCityGML形式による3次元データの多用途での活用、屋内外の地図を重ね合わせてロボットの自動走行に活用する事例もあり

(4) 測位技術の進展

・LIDARで自己位置を推定する「SLAM技術」により、高精度な経路案内が実現

### 第4章 目指すべき将来像

- ・第3章で示したデジタル技術の進展や新たなサービスの登場などの状況を鑑み、従来の施策目標である「歩行者移動支援サービスの普及」をさらに発展させた、「歩行空間における人・モノの移動支援サービスの普及・高度化」が期待可能
- ・そこで、歩行者移動支援サービスレベルを「レベル1」～「レベル4」まで定義し、目指すべき将来像を「レベル4」とする(図1)
- ・ただし、「レベル4」の実現には周辺環境が十分に整うことも条件となり、今しばらく時間を要することが想定されるため、当面は、従来の「レベル2」の充実、並びに、「レベル3」の実現を目標とすることを提案
- ・その際、障害者向けサービスの普及・高度化と自動走行ロボットによるビジネス展開が密接な関係があるものとして着実に進んでいくよう、常に双方の関連性を念頭に置きながら各種取組を進めていくことが重要

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
歩行空間ネットワークデータ	情報提供 ・デジタル化：対応 ・対象データ：バリアフリー情報 ・更新頻度：なし ・対象空間：屋内/屋外 ・データ種別：可 ・測位技術：-	屋外の移動支援 ・デジタル化：対応 ・対象データ：NWD、施設ID ・更新頻度：なし ・対象空間：屋外 ・データ種別：可 ・測位(推定)技術：GNSS	屋外の高度な移動支援 ・デジタル化：対応 ・対象データ：施設ID、NWD、施設ID ・更新頻度：なし ・対象空間：屋外 ・データ種別：可 ・測位(推定)技術：GNSS、CLASS、LIDAR SLAM <sup>1)</sup>	リアルタイム屋内/屋外の高度な移動支援 ・デジタル化：対応 ・対象データ：施設ID、NWD、施設ID ・更新頻度：あり ・対象空間：屋内/屋外 ・データ種別：可 ・測位(推定)技術：GNSS、CLASS、LIDAR SLAM <sup>1)</sup>
歩行者移動支援サービス	バリアフリー経路利用アプリで経路案内、経路選択	スマホアプリ上で最適なバリアフリー経路案内(GNSSで測位)の提供(音声ガイドも利用)	スマホアプリ上で最適なバリアフリー経路案内(CLASS/LIDARで自己位置を測位)の提供(音声ガイドも利用)	スマホアプリ上で最適なバリアフリー経路案内(CLASS/LIDARで自己位置を測位)の提供(音声ガイドも利用)
視覚障害者	事前に選択した出発地と目的地の経路情報、音で再生しながら移動	(測位誤差が大きいため安全な移動支援は不可)	スマホアプリ上で最適なバリアフリー経路案内(CLASS/LIDARで自己位置を測位)の提供(音声ガイドも利用)	スマホアプリ上で最適なバリアフリー経路案内(CLASS/LIDARで自己位置を測位)の提供(音声ガイドも利用)
自動走行ロボット	-	-	自動走行ロボットが施設周辺から集合住宅の玄関前まで入居者の移動支援が可能(音声ガイドも利用)	自動走行ロボットが施設周辺から集合住宅の玄関前まで入居者の移動支援が可能(音声ガイドも利用)

図1 本提言で提案する歩行者移動支援サービスのサービスレベルの定義

### 第5章 これから取り組むべき施策の方針

・基本方針として、従来どおり、バリアフリー施策や施設管理を担当する市町村などが主体となって移動支援サービスの提供に資する様々な情報をオープンデータ化し、それらを活用する民間事業者などによって利用者のニーズに沿った多様なサービスが展開されるために必要な環境を整備

・加えて、第2章で示した課題を踏まえた上で、第4章で示した目指すべき将来像に向け、以下取組を実施

(1) データ整備・更新の効率化

・バックパック型やドローン搭載型のレーザーキャナなどを活用してより効率的にデータを取得したり、歩行空間ネットワークデータやバリア情報を自動生成したりするなど、作業の効率化を図るための技術検討  
・道路管理などで取得・整備した3次元点群データの活用や、他プラットフォームとの連携可能性の検討  
・行政だけでなく、市民参加などによるデータ更新の仕組みを実施できるようにするための検討

(2) オープンデータ化のさらなる促進

・国土交通省で整備した「歩行者移動支援サービスに関するデータサイト」の機能性・操作性の改善  
・データの整備・更新と利活用を容易に行うことが可能なデジタル基盤の整備  
・施設管理やバリアフリーマップ作成と、本施策に必要なデータや作業との統一化などの工夫や仕組みの検討

(3) 新たなニーズへの対応

・簡易的にデータ整備が行えることも考慮しつつ、利用者ニーズに合わせた柔軟なバリア選択を可能としたり、視認性向上のための画像データを追加したりするなどのデータ整備仕様の改善検討  
・パーソナルモビリティと自動走行ロボットの双方の移動に活用できる3次元点群データの精度などのあり方やデータ共有の方法などの検討

・3次元点群データの活用を視野に入れた、視覚障害者向けサービスに必要なデータ仕様などの検討  
・ロボットによるエレベータ制御や、ロボット遠隔監視業務への障害者の就労支援などについて関係者の検討に資する基礎材料となる関連情報の収集や提供

・個別避難計画の作成など、障害者向け避難支援サービスなどの提供に向け、ハザードマップなどの連携を想定した歩行空間ネットワークデータの整備や避難所の位置情報などの関連データのオープンデータ化の検討

(4) 認知度や訴求力、実行力の向上

・データ整備主体・利用主体ともに認知度を向上させるため、講習会や広報などの周知活動  
・関心の高い自治体における実証事業や、大規模な集客が見込まれるイベントのタイミングでの実績づくり  
・関係者間での情報共有のため、国・自治体や民間事業者、障害者団体などの関係者が集まり、自由に意見交換や問題提起、課題共有などができる場の構築

(5) 進捗状況の把握などによる効果的な取組の推進

・取組の進捗状況を定期的に把握し、必要に応じて課題分析や追加対策を講じるなどして効果的に取組を推進  
・進捗状況を把握可能な指標の開発も視野に

### 第6章 おわりに

- ・昨今の急速なデジタル技術の進展や普及により、本施策の理念や志向に時代が追いついてきたことでまさに「歩行空間における移動支援サービスのDXによる普及・高度化の実現」が近づいているところ
- ・本施策は、取組への関わりや実際のサービス享受などの体験を通じて、真のユニバーサル社会実現に向けた国民の機運醸成という観点でも貢献しうるもの
- ・今後展開が見込まれる自動走行ロボットを活用したビジネスの成功は、本施策の普及促進を早める機会として最大限生かすことを念頭に取組を進めるべき



## (目次)

1. 「歩行空間の移動支援に係るデータのオープンデータ化・利活用促進WG」における検討状況
2. 「歩行空間ナビゲーションデータプラットフォーム」(ほこナビDP)のプロトタイプ構築について
3. 技術的な課題への対応について
4. 広報活動(歩行空間DX研究会の活動等)の実施状況の報告



# 1. 「歩行空間の移動支援に係るデータの オープンデータ化・利活用促進WG」 における検討状況

○歩行空間ネットワークデータ、バリアフリー施設等データ、歩行空間の3次元地図の整備・更新・オープンデータ化・利活用を全国的に展開及び普及するため、現地実証やヒアリング等を踏まえながら検討。  
○令和7年度は、3回のWGでの議論を踏まえて必要な取組を推進(資料3を参照)。

## 構成員

- 座長** 別所 正博 (東洋大学情報連携学部情報連携学科 教授)
- 有識者** 江守 央 (日本大学理工学部交通システム工学科 教授)  
石塚 裕子 (東北福祉大学共生まちづくり学部共生まちづくり学科 教授)  
岩崎 秀司 (一般社団法人社会基盤流通推進協議会 理事)  
相澤 美穂子 (松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科 准教授)
- 自治体** 東京都 福祉局 生活福祉部 企画課  
東京都 北区 まちづくり部 都市計画課  
東京都 渋谷区 産業観光文化部 グローバル拠点都市推進課  
神奈川県 川崎市 まちづくり局 指導部 建築管理課  
愛知県 名古屋市 健康福祉局 障害福祉部 障害企画課
- 事業者** JR東日本コンサルタンツ株式会社  
全日本空輸株式会社  
株式会社ナビタイムジャパン  
WHILL株式会社  
ソフトバンク株式会社  
NPO法人ウィーログ  
コドモト株式会社  
株式会社iiba

## 検討内容

①データの整備・更新・オープンデータ化・利活用を促進するためのデータ整備等の方針の検討

②各地域における取組の際の運用方針の検討

③取組事例拡大に向けた戦略等の検討



<WG開催状況>

- 第1回WG 令和7年7月7日開催
- 第2回WG 令和7年12月23日開催
- 第3回WG 令和8年2月26日開催

技術検討フェーズでの成果を最大限活用し、  
本施策の**全国的な普及展開**に向け、全国各地域において**各種データ(歩行空間ネットワークデータ、バリアフリー施設等データ、歩行空間の3次元地図データ等)の整備・更新・オープンデータ化・利活用を促進するためのデータ整備等の方針や各地域における取組の際の運用方針、取組事例拡大に向けた戦略等**について検討

### データ整備、更新

現地調査・データ整備  
(自治体、施設管理者、市民、等)

既存技術によるデータ取得  
(自治体、民間事業者、等)

自動生成

多様な主体によるデータ整備、更新  
既存技術等の最大限の活用

### 歩行空間 ナビゲーション データプラットフォーム (ほこナビDP)

現地実証を通じた検討

### データ利活用

バリアフリーマップ・バリアフリーナビへの活用

子育て支援マップ

歩行空間の  
3次元点群データ

モビリティの走行実績あり  
→ランク区分:ACC

自動配送ロボットへの活用

多様な観点でのデータ利活用  
他PFとのデータ連携

**アジャイル思考**による運用方法の見直し等を行いながら、  
利活用事例の蓄積を行い、全国展開を目指す

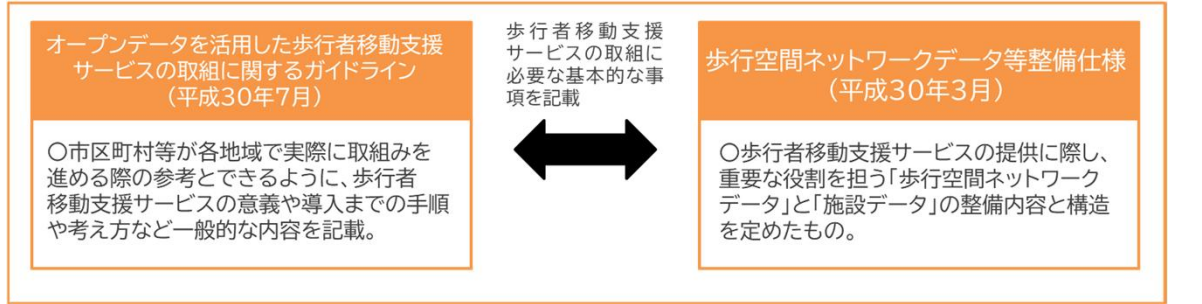
# ①データ整備・更新・オープンデータ化・利活用の推進に向けたガイドラインの改定



提言(R5.3)を踏まえ、多様な主体の参画によるデータ整備・更新や既存技術等の最大限の活用を前提としたオープンデータ化の推進、多様な観点でのデータ利活用ができる環境の構築に向け、現行の手引きを統合する形で、ガイドラインの改定案の整備を検討

## < 現行のガイドライン・手引きの構成 >

- ・歩行者移動支援サービスを検討している担当者向けに、検討や導入の際の参考となる実施手順やポイント、参考例についてまとめたガイドラインを公表。
- ・データ整備促進を目的とした自治体向けの手引きも整備。



効率的な歩行空間ネットワークデータ等の整備に関する手引き (平成31年3月)

○歩行空間ネットワークデータ等のデータ整備推進を目指し、市区町村が歩行空間ネットワークデータ等の整備を効率的に行うための手引書。

○市区町村が実施しているバリアフリー調査等の既存施策と連携することにより、歩行空間ネットワークデータ等を効率的に整備する方法について実証を通じて確認した具体的な方法を記載。



## < 改定案のポイント >

- ①ほこナビDPの活用を前提としたデータ整備・更新
- ②取組体制の構築にあたり、多様な主体の参画を想定したデータ整備・更新 (多様な主体の取組体制や役割分担等を整理)
- ③既存施策との連携によるデータ整備・更新
- ④データ整備・更新の各ステップにおけるオープンデータ化・利活用を念頭に置いたマニュアルを整備



利活用事例の創出とともに事例を追加し、最新技術の動向等にあわせてガイドラインをアジャイル思考でアップデートを目指す。

# ①データの整備・更新・オープンデータ化・利活用を促進するための データ整備等の方針の検討



○ガイドラインは、ほこナビDPの活用を前提に市民参加型で歩行空間における移動支援サービスに必要なデータのオープンデータ化を実施するための手順を解説。  
 ○データの精度やデータの整備範囲を明示し、収集方法によるデータ精度の留意点や初期整備からステップアップしていくときの考え方を解説。これらの考え方をもとに実施主体が優先順位をつけながらデータを整備。

データ整備の流れ

想定される関係者

	地方公共団体等の 主管部署	関係部署	当事者団体 ・市民・施設 管理者等
<b>Step1: 全体計画書の作成</b> データ整備等の実施に必要な事項の検討 (目的、データ整備内容、取組体制、必要機材、整備範囲、実施日程等)	○		
<b>Step2: 取組体制の構築</b> 多様な主体の参画による取組体制の構築 (Step3と同時並行でも可)	○	○	○
<b>Step3: データのリストアップ</b> 既存の施策や調査結果等を活用し、データの整備内容を 検討(Step2と同時並行でも可)	○	○	○
<b>Step4: データ整備</b> <span style="background-color: #FFD700; padding: 2px;">ほこナビDP活用</span> 既存の施策や調査結果等を踏まえ、現地でデータ整備を 実施	○	○	○
<b>Step5: オープンデータ化</b> <span style="background-color: #FF69B4; padding: 2px;">ほこナビDP活用</span> 整備したデータをほこナビDP等のオープンデータサイトに 公開(Step5とStep6の繰り返し)	○		
<b>Step6: データ管理・更新</b> <span style="background-color: #90EE90; padding: 2px;">ほこナビDP活用</span> 継続的なデータ管理、工事や改修の情報等を踏まえた データ更新を実施(Step5とStep6の繰り返し)	○	○	○

<歩行空間ネットワークデータのデータ精度と整備範囲(案)>

データ収集の方法	データ精度に係る留意点
現地調査	精緻なデータを収集可能だが、時間と労力がかかる。
モビリティの走行軌跡	GPSで取得する走行軌跡の位置精度により、実際の走行経路と異なる可能性がある。
既存施策からの抽出	一部の情報を機械的に抽出可能だが、現地状況が異なる可能性がある。
市民等からの投稿	位置精度の観点から実際の位置とずれている場合や事実と異なる可能性もある。

データの整備範囲(案)			
LOS	A	ランク区分、経路の構造、経路の種類、方向性等の人・ロボット両方に対応できる水準まで整備	駅等の旅客施設周辺(半径1km程度)、バリアフリー法における重点整備地区、指定緊急避難場所・指定避難所から半径1km程度、自動配送ロボット走行箇所
	B	LOS Aで整備出来ていない第2層データ(視覚障害者誘導用ブロックの有無等)	LOS Aの範囲と同様
	C	最低限ランク区分まで整備	バリアフリー法における移動等円滑化促進地区
	C	任意水準による整備	各地方公共団体の全域

<バリアフリー施設等データのデータ精度と整備範囲(案)>

データ収集の方法	データ精度に係る留意点
現地調査	精緻なデータを収集可能だが、時間と労力がかかる。
写真によるAI判定	写真からバリアフリー設備情報を抽出するため、画角によっては設備が抽出されない等の間違った判定をする可能性がある。
既存施策からの抽出	一部の情報を機械的に抽出可能だが、現地状況が異なる可能性がある。
施設管理者からの投稿	信頼性の高い情報だが、投稿するかどうかは管理者判断となる。
市民等からの投稿	位置精度の観点から実際の位置とずれている場合や事実と異なる可能性もある。

データの整備範囲(案)			
LOS	A	施設データの情報項目のうち●・◎のほか、写真と利用時間を最低限整備	駅等の旅客施設周辺(半径1km程度)、バリアフリー法における重点整備地区、指定緊急避難場所・指定避難所から半径1km程度、自動配送ロボット走行箇所
	B	LOS Aで整備出来ていない○のデータ(乳幼児用椅子設置トイレの有無等)	LOS Aの範囲と同様
	C	施設データの情報項目のうち●・◎のほか、写真と利用時間を最低限整備	バリアフリー法における移動等円滑化促進地区
	C	任意水準による整備	各地方公共団体の全域



○ほこナビDPを活用した運用方針の検討を行うにあたり、歩行空間ネットワークデータとバリアフリー施設等データにかかるデータ整備実証を通じた検討を実施。

実証①：  
歩行空間ネットワーク  
データ整備実証

効率的な歩行空間NWデータの整備促進に向け、自治体やボランティア等を対象とした現地での実証を行い、データ整備等の普及・展開に向けた運用面の課題や利活用方策等について整理

実証②：  
バリアフリー施設等データ  
整備実証※

効率的なバリアフリー施設等データの整備促進に向け、自治体職員やボランティア等を対象とした現地での実証を行い、データ整備等の運用方針やシステムの改良点等について整理

※「歩行空間における移動支援サービスに関する現地事業の募集」として公募を行い、実施主体を選定。

(公募期間:令和7年7月24日～令和7年8月29日)

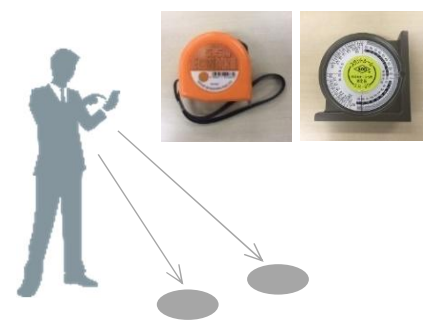
ほこナビDPの歩行空間NWデータ整備システムを用いて、歩行空間NWデータ整備仕様(2024年7月版)に基づき、自治体職員やボランティア等によるデータ整備等の運用方針と利活用方策を検討するためのデータ整備実証を東京都北区で実施。

## 実施概要

目的	効率的な歩行空間NWデータの整備促進に向け、自治体やボランティア等を対象とした現地での実証を行い、データ整備等の普及・展開に向けた運用面の課題や利活用方策等について整理
実施事項	自治体職員及びボランティアにより、以下の項目を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>現地調査でのバリア情報(幅員・縦断勾配・段差)の収集</li> <li>歩行空間NWデータ整備システムを用いた、ランク区分の入力、形状データの修正</li> <li>まち歩きを通じた利活用方策の検討</li> </ul>
実施場所	東京都北区
日程	2025年10月27日(月)

## 検証事項

### ■現地調査(幅員、縦断勾配、段差の確認)



- 現地調査により、歩道のバリア(幅員・段差・縦断勾配)を確認
- 自治体職員やボランティアによる現地調査、及び解説等サポートにおける課題点等の確認

### ■まち歩きを通じた歩行空間NWデータ整備システムを用いたデータ整備



- タブレット端末からシステムを用いて、現地調査を踏まえたランク区分の入力、形状データの修正を実施
- システムの機能性・操作性、自治体職員やボランティアによるデータ整備等の課題点や利活用方策等を整理





- 昨年度の実証結果を踏まえた改善対応等により、システムの機能向上、専門的な知識を有していなくても事前講習によりデータ整備を実施できること、データの活用方法案を確認。
- 普及展開に向けた課題として、引き続きのシステム改良の検討や現地調査に関する解説の充実等を考慮したガイドライン及びマニュアルの整備、データ整備講習等の自治体への展開が必要。

## 実証の様子

歩行空間の幅員・縦断勾配・段差の現地計測と、システムを用いた歩行空間ネットワークデータ(ランク区分)の整備を実施



## システムの機能性・操作性

データ入力・編集等の操作において、機能改善を引き続き行うとともに、操作説明等のサポート方法に関して検討が必要。

## データ整備・システムの運用

研修や解説等のデータ整備に関するサポートのほか、ガイドラインやマニュアル等によりデータ整備を実施する体制構築の支援を行うことで、自治体職員に対する整備負担を軽減することが必要。

## 自治体への普及展開

自治体への普及展開には、データ整備の意義・目的や活用事例等を、マニュアルや研修等を通して提示するとともに、継続的にデータ整備を促すことが必要。



ほこナビDPのバリアフリー施設等データ整備システムを用いて、バリアフリー施設等データ整備仕様(案)に基づき、自治体職員やボランティア等によるデータ整備等の運用方針やシステム機能面を検討するためのデータ整備実証を大阪府豊中市と大阪府池田市で実施。

## 概要

目的	効率的なバリアフリー施設等データの整備促進に向け、自治体職員やボランティア等を対象とした現地での実証を行い、データ整備等の運用方針やシステムの改良点等について整理
実施事項	自治体職員及びボランティアにより、以下の項目を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>自治体等が保有している既存情報のシステムへの取り込み及び編集によるデータ整備</li> <li>生成AIを活用した、トイレ、エレベーター等の写真からの設備情報の抽出・簡易入力によるデータ整備</li> </ul>
実施場所	大阪府豊中市 大阪府池田市
日程	2025年11月26日(水)、27日(木)

## 検証事項

### ■既存の施設情報を用いたデータ整備



- 既存の施設情報等を用いて、データ整備を実施
- システムの機能性・操作性、日常業務において効率よくデータ整備するための工夫点等を確認

### ■写真からのバリアフリー情報抽出によるデータ整備

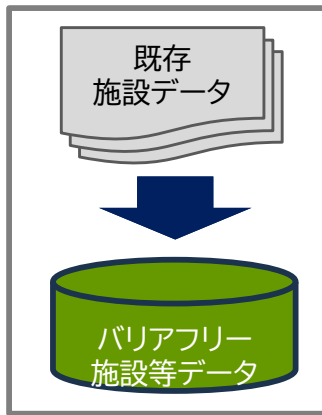


- 撮影した写真から設備情報を抽出するAI機能を用いて、データ整備を実施
- システムの機能性・操作性、バリアフリー情報を適切に抽出するための写真撮影における工夫点等を確認

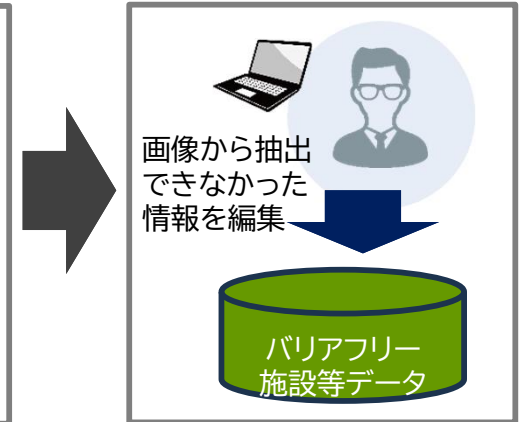
PCを用いた事務所内でのデータ整備とスマートフォンを用いた現地確認とあわせたデータ整備の2種類を実施。

## 1. 事務所内でのデータ整備(PC使用)

### ① 既存施設データの取込み

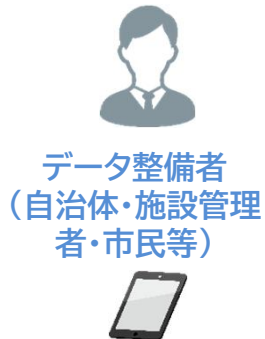


### ② 画像識別による設備情報登録



## 2. 現地確認とあわせたデータ整備(スマートフォン使用)

### ① 位置情報による施設(場所)の特定



### ② 画像識別による設備情報登録





- 実証を通して、システムの機能性・操作性、写真撮影等における現地調査での留意点、システム利用によるデータ整備の効率性向上、データの活用案を確認。
- 普及・展開に向けた課題として、システム改良の検討、システム操作方法や現地調査の留意点等を考慮したマニュアル等の整備、データ整備等に関する技術支援、活用事例の創出が必要。

## 実証の様子

対象施設において、バリアフリー設備の写真撮影し、システムを用いてAIによるバリアフリー情報の抽出と、データの編集を実施

大阪府豊中市

大阪府池田市



## システムの機能性・操作性

AIによる画像解析やデータ入力・編集・公開等の操作において、機能改善を行うとともに、操作説明等のサポート方法に関して検討が必要。

## データ整備・システムの運用

現地調査やシステム操作に関するマニュアル等を整備し、多様な主体による参画を促すことで、整備するデータの充実や自治体に対する整備負担の軽減が必要。

## 自治体への普及展開

データの活用事例や更新方法、システム(ほこナビDP)の導入等に関して、研修やマニュアル等の提供とともに、継続的にデータ整備を促すことが必要。

※バリアフリー施設等データ整備仕様(案)に基づきシステムを用いたデータ整備を実施

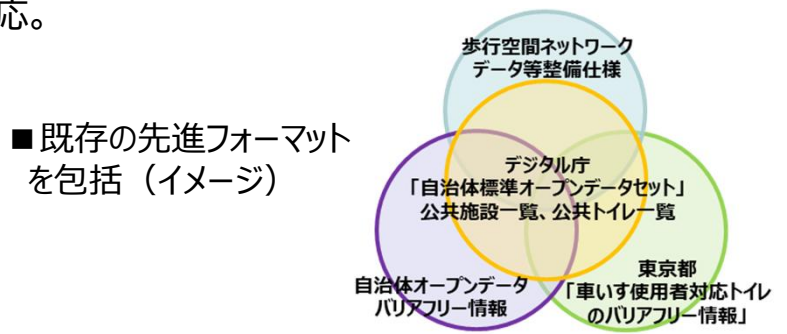
# バリアフリー施設等データ整備仕様(案)

誰もが使い勝手のよいバリアフリー施設等の情報を全国で利用できるよう、写真による簡易なデータ整備も可能なバリアフリー施設等データの標準化を、運用面と合わせ検討。

## ポイント

### <ポイント1> 全国共通の標準的なデータフォーマット

- 自治体、施設管理者等による情報の提供方法、内容等のバラつきを解消するため、**全国共通の標準的なデータフォーマット**を作成。
- 先進事例への対応により、整備すべきデータ項目の漏れを無くし、かつ既に整備・管理されているデータを極力そのまま活かせるよう対応。



### <ポイント2> 写真による簡易なデータ整備への対応

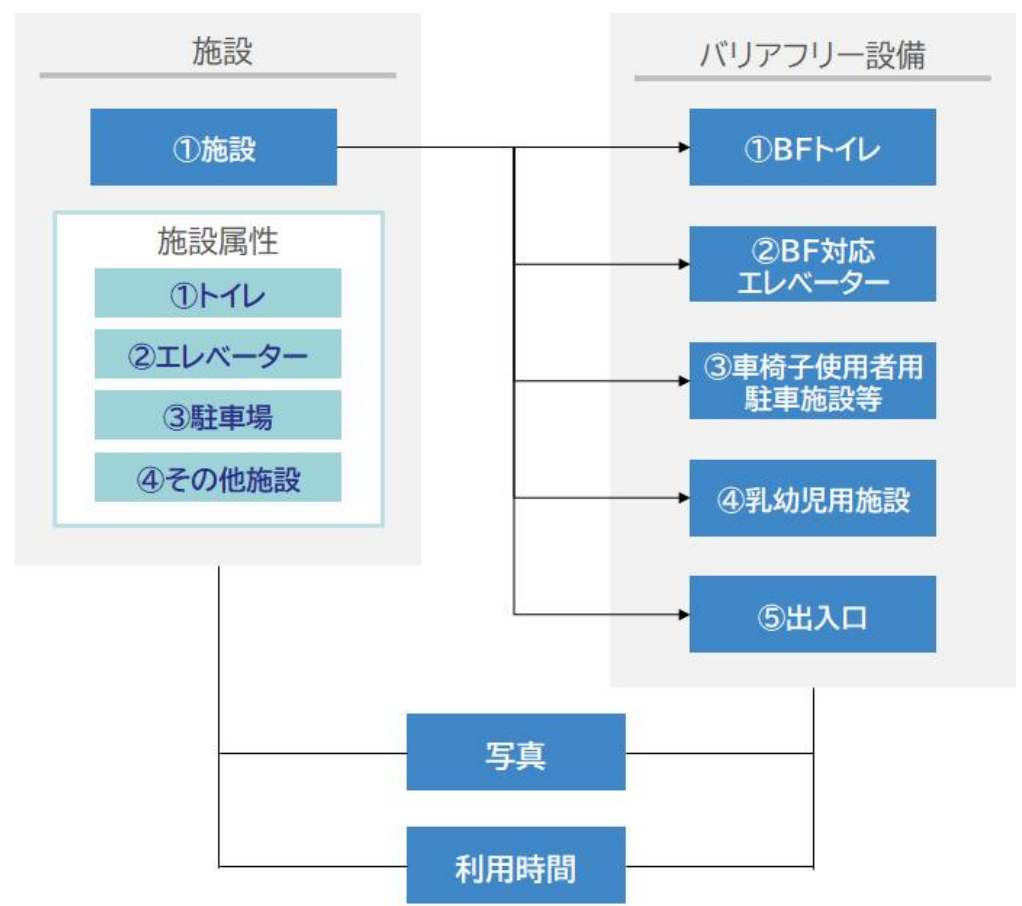
- 従来の整備仕様の詳細調査を必須とせず、**写真のみ**による簡易なデータ整備も可能とすることで、施設利用者やボランティアによる投稿の他、AIによる施設・設備等の判定によるデータ整備にも対応。

■ 写真だけの簡易データ整備も可能に



## データの構成

バリアフリー施設等データは、「施設」「バリアフリー設備」で構成。「施設」は、より詳細な施設情報を定義する「施設属性」を定義。また、「施設」「バリアフリー設備」に関連付ける情報として「写真」「利用時間」を定義。





## 2. 「歩行空間ナビゲーションデータプラットフォーム」 (ほこナビDP)のプロトタイプ構築について

# 歩行空間ナビゲーションデータプラットフォーム(ほこナビDP)の機能



- ほこナビDPIは、歩行空間における移動支援サービスの普及・高度化を促進するため、歩行空間NWデータの効率的な整備・管理・更新や自動配送ロボット等の走行に活用できる3次元地図の統合処理、バリアフリー施設等データの整備・管理・更新の効率化のための機能を持つシステム(現行版はプロトタイプ)。
- 整備された各種データは国土交通省HPのオープンデータサイトで公開。
- 今後、自治体等への支援ツールとして広く活用していただくため、試行利用の場を増やし、継続的に操作性や機能性の改善を図る。

**オープンデータサイト**  
(2025年9月30日より公開)

※現時点未公開  
**バリアフリー施設等データ整備システム**

※現時点未公開  
**歩行空間NWデータ整備システム**

**3次元地図整備システム**  
(2025年5月23日より試行運用開始)

各システムで作成したデータを公開・提供

**【市民参加等も可能なデータ整備・更新機能】**  
市民参加等によりバリアフリー施設等のデータを簡易に整備・更新が出来る機能

**【施設データ整備・管理・更新機能】**  
バリアフリー施設等の情報を収集のうえ、施設データを整備・管理・更新する機能

**【市民等からの現地情報報告等機能】**  
現地調査、市民投稿等により得た情報をもとにNWデータを整備・管理・更新する機能

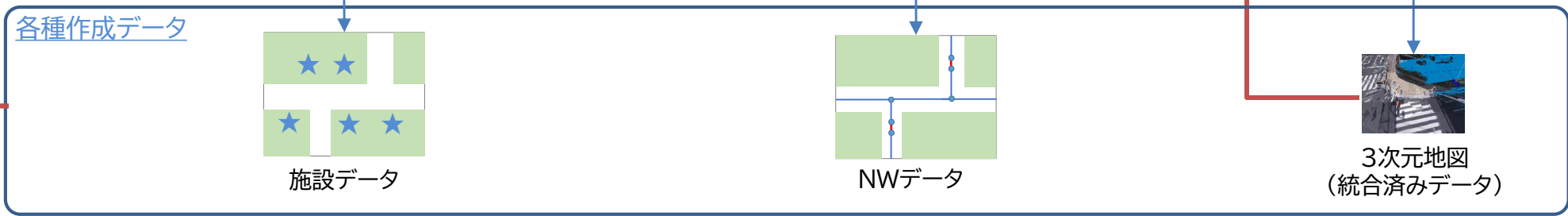
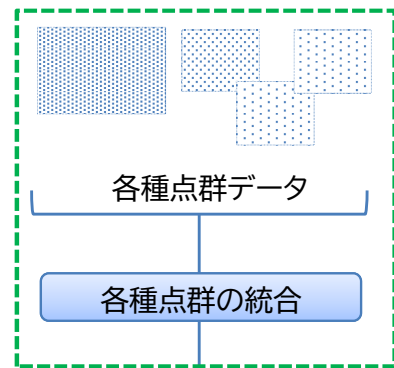
**【NWデータ整備・管理・更新機能】**  
3次元地図(点群)、既存の地図データや航空写真データ等を用いて、NWデータを整備・管理・更新する機能

**【3次元地図統合機能】**  
様々な点群データをフィルタリング、統合し、3次元地図を整備・管理・更新する機能

施設データの整備(新規作成・更新)

施設データの整備(新規作成・管理・更新)

NWデータの整備(新規作成・管理・更新)



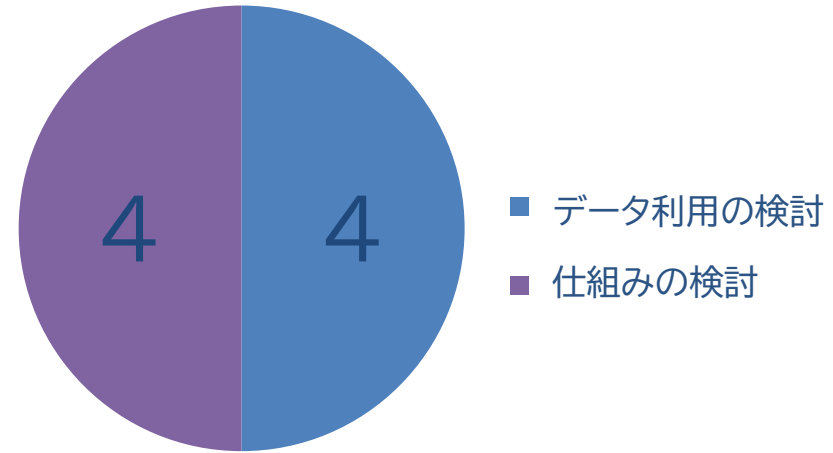
プログラム処理でデータを作成の上、必要に応じて手動操作によるデータの編集を実施する。

※バリア情報を含まない歩行空間のネットワークデータ



- 令和7年5月23日より試行運用を開始し、14者より申請を受け、貸出を実施。
- 申請者の利用目的が歩行空間ナビ・プロジェクトの目的とは一致していないものの、3次元点群データの利用やプロトタイプシステムの確認を目的とした申請も一定数あり。
- 試行利用期間(3ヶ月間)終了後のアンケート回答者は6者となった(試行利用期間を延長しているものなどもあり。)

## 3次元地図整備システムの試行目的分類※



アンケート回答結果より、搭載データを利用したい方は4者  
仕組みの利用を検討したい方が4者  
(2者は搭載データ、仕組みともに利用を検討して頂いたため回答者数と合わない)

## データ利用の検討者のご意見(抜粋)

- 利用申請者の利用したいエリアのデータが不足
- 事前に整備されているエリアの公開を希望

※アンケートの回答のない利用者の多くは、システム内で確認できる3次元点群データが川崎市しか存在せず、試行利用目的を達成できない申請者が多い可能性がある。

## 仕組みの検討者のご意見(抜粋)

- セットアップ手順が煩雑
- エラー時の対応やフィルタリングツールに設定するパラメータの推奨値開示など利用にはサポートが必要
- 操作が複雑なため、より簡易な操作性の実現
- 3次元点群データ公開サイトはUI(ユーザーインターフェース)が分かりやすい

歩行空間の3次元地図の整備促進に向けて引き続き試行運用を実施し、事前にデータが整備されているエリアの公開や、操作性の改善等の検討を実施。



### 3. 技術的な課題への対応について



- ・バリアフリーマップ等への活用可能性が高いバリアフリー施設等データの普及展開を促進させるよう、従来仕様から歩行空間ネットワークデータとバリアフリー施設等データを分離
- ・簡易な計測によるデータ整備・更新等によりデータ整備の負荷を下げるとともに、人・ロボットへの活用が可能となるようデータ整備仕様を改定

## 改定のポイント

### <ポイント1> 簡易な計測によるデータ整備・更新

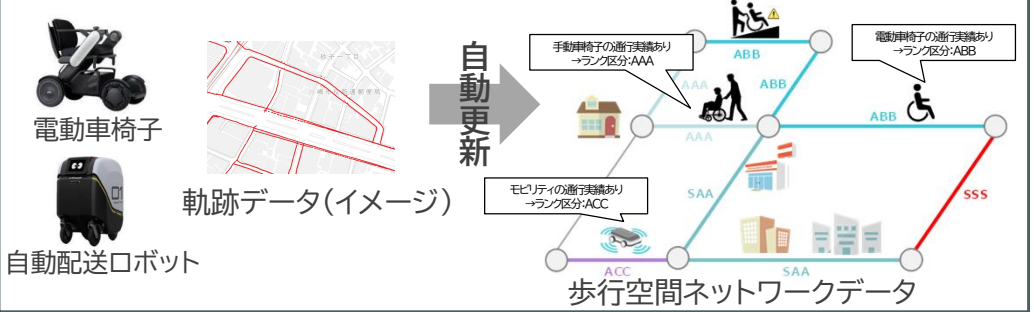
- ・データ整備・更新の効率化を図るため、通行時の主なバリアとなる**幅員・縦断勾配・段差**に関する情報のみの確認とし、**ランク区分**の設定により、人やモビリティの移動支援に対応できるよう改定。

### <ポイント2> モビリティの性能を考慮した仕様変更

- ・主なバリアである「幅員」「縦断勾配」「段差」の閾値について、電動車椅子や自動配送ロボット等の性能の違いも考慮することにより、**歩行空間を利用する人のみならずロボットに対しても活用できる**よう改定。

### <ポイント3> モビリティ等の走行軌跡を活用したデータ整備・更新

- ・ランク区分の設定により、現地調査のみで実施してきた歩行空間ネットワークデータの整備・更新を、将来的には**モビリティ等の走行軌跡を活用し、データ整備・更新**ができるよう改定。



## 幅員・縦断勾配・段差のランク

- ・ランク区分は、現地調査の結果や走行軌跡をもとに判定した、幅員・縦断勾配・段差それぞれのランクを順に並べて、英字3文字(例: ABB)で表現。
- ・各ランクの閾値は、道路の移動等円滑化に関するガイドライン、モビリティの性能などを参考に閾値を設定。

	幅員	縦断勾配	段差
S	2m以上 (離合可能)	0% (平坦)	0cm (段差なし)
A	1m以上～2m未満 (通行可能)	0%～5%以下 (道路の移動等円滑化に関するガイドラインに適合)	0cm～2cm以下 (道路の移動等円滑化に関するガイドラインに適合)
B	—	5%～8%以下 (道路の移動等円滑化に関するガイドライン等に適合)	2cm～5cm以下 (電動車椅子で通行可能)
C	1m未満 (モビリティで通行可)	8%～18%以下 (一部モビリティで通行可能)	5cm～10cm以下 (一部モビリティで通行可能)
Z	1m未満 (通行不可)	18%より大きい (通行不可)	10cmより大きい (通行不可)
X	不明	不明	不明

\* 現地調査結果を基にランクを設定した場合、表中に記載されている各ランクの閾値全てを参照。走行軌跡を基にランクを設定した場合、各項目において正確な値を把握できていないため、赤字部のみに読み替える(例:段差「2cm～5cm以下」は「～5cm以下」)。

昨年度のスマートフォンで収集した走行軌跡データ等を用いた実証結果を踏まえ、スマートフォンより精度の高い準天頂衛星を利用した高精度測位技術等により、走行軌跡データを用いた歩行空間NWデータの整備について検討。

## 実施概要

目的	歩行空間NWデータの整備効率化を実現するうえで、高精度測位を活用したモビリティの走行軌跡データ等を利用したデータ整備における課題や留意点を整理
実施事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>準天頂衛星対応測位機材を活用した現地歩行時の位置情報の収集</li> <li>マップマッチング技術(改良版)の精度評価を行い、マップマッチング技術を用いたデータ整備の可能性を確認</li> </ul>
場所	横須賀ドブ板通り(昨年度実証と同エリア)
時期	2026年1月

## 検証事項(実証イメージ)



※ 出典(<https://jp-store.whill.inc/model-c2-all.html>)

# 軌跡データの特性確認(低層建築物隣接地)



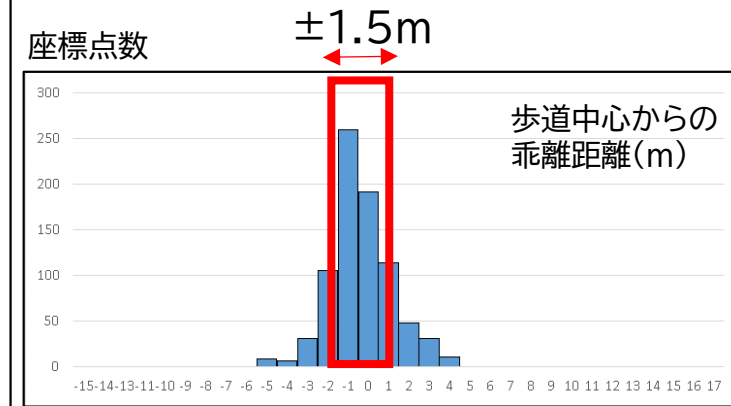
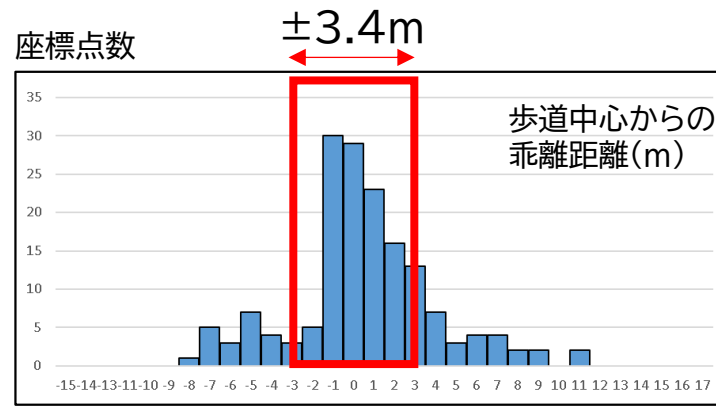
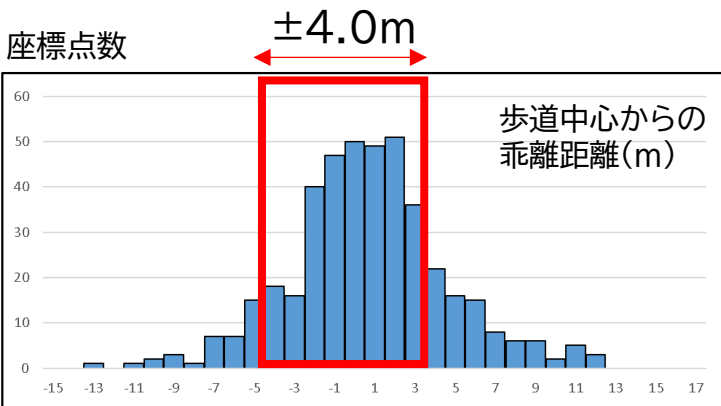
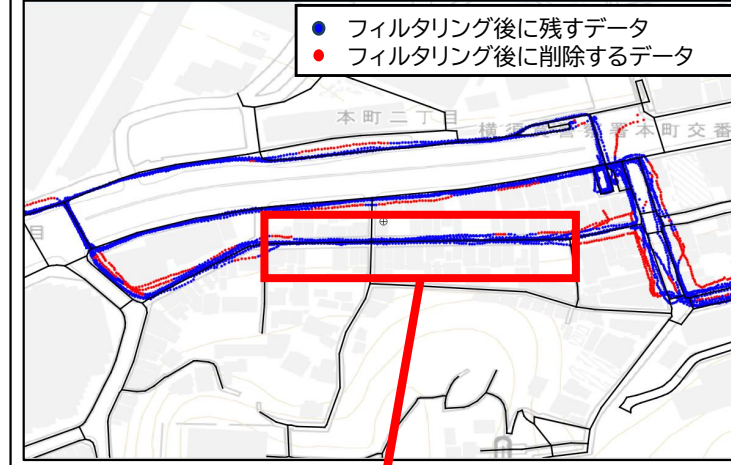
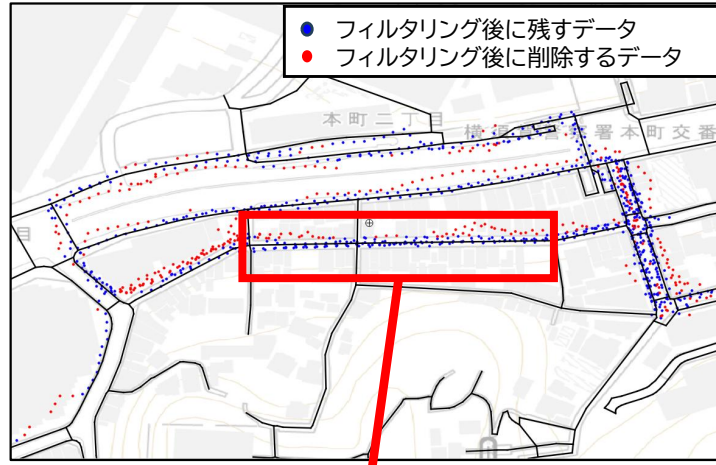
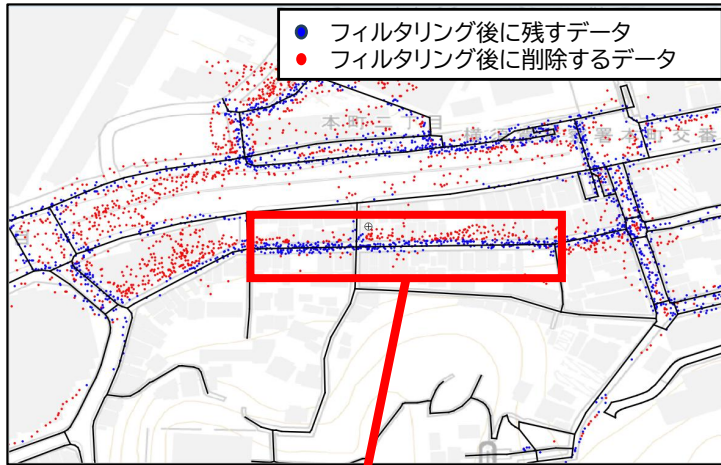
低層建築物が隣接し、衛星受信が限定される横須賀ドブ板通りにおける軌跡データの分布を確認。  
スマートフォンと比較し、準天頂衛星対応測位機材は精度が高く概ね歩道上に分布。



[使用データ]  
WheeLog! の走行軌跡データ

[使用データ]  
スマートフォン(Google Pixel7)

[使用データ]  
準天頂衛星対応測位機材



標準偏差:4.0m

標準偏差:3.4m

標準偏差:1.5m

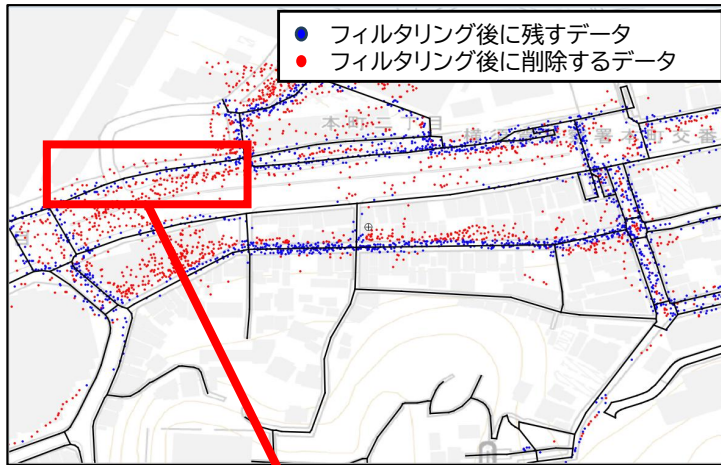
# 軌跡データの特徴確認(上空視界が良好な地域)



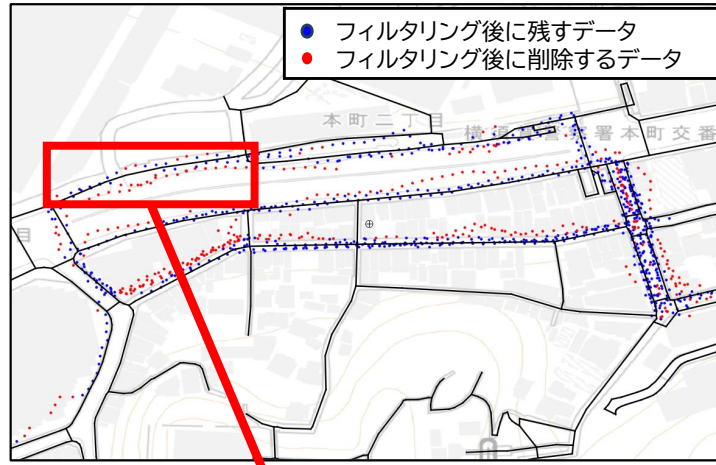
上空視界が開けており、衛星電波受信が良好な地域における軌跡データの分布を確認。  
スマートフォンと比較し、準天頂衛星対応測位機材は精度が高く歩道上に分布。



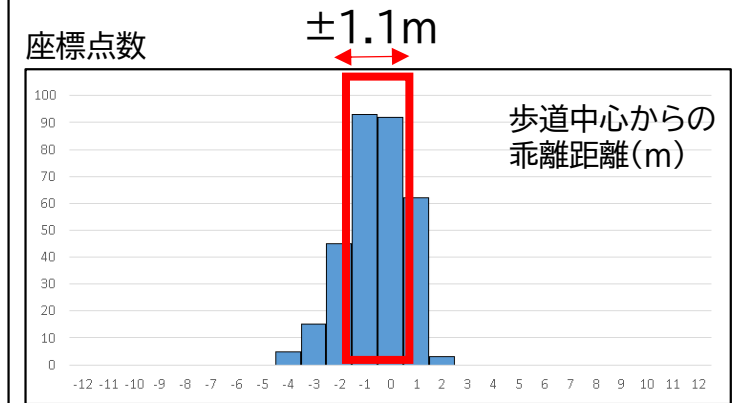
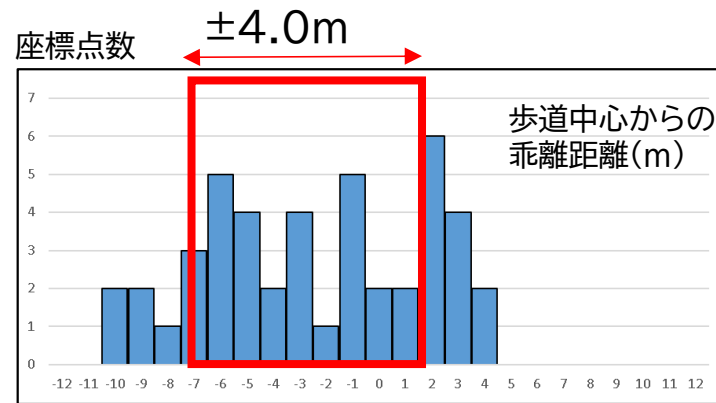
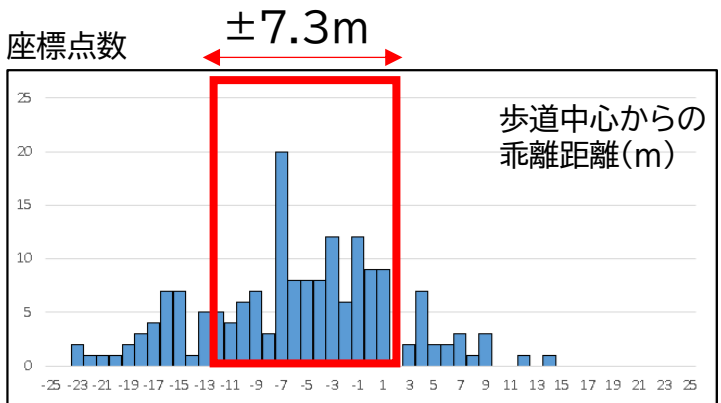
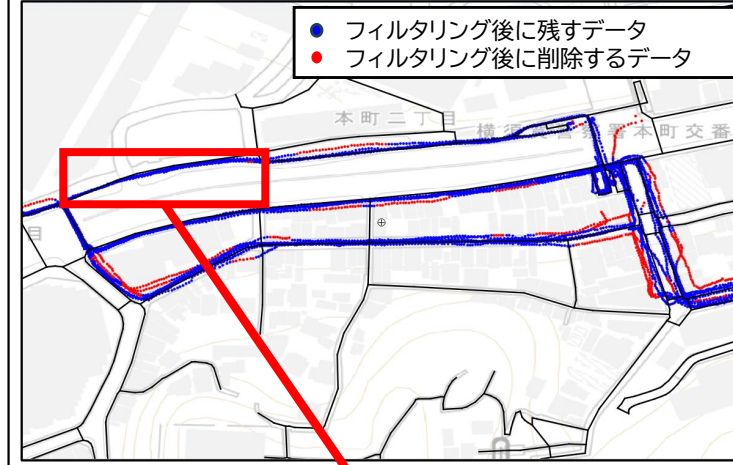
[使用データ]  
WheeLog! の走行軌跡データ



[使用データ]  
スマートフォン(Google Pixel7)



[使用データ]  
準天頂衛星対応測位機材



標準偏差: 7.3m

標準偏差: 4.0m

標準偏差: 1.1m

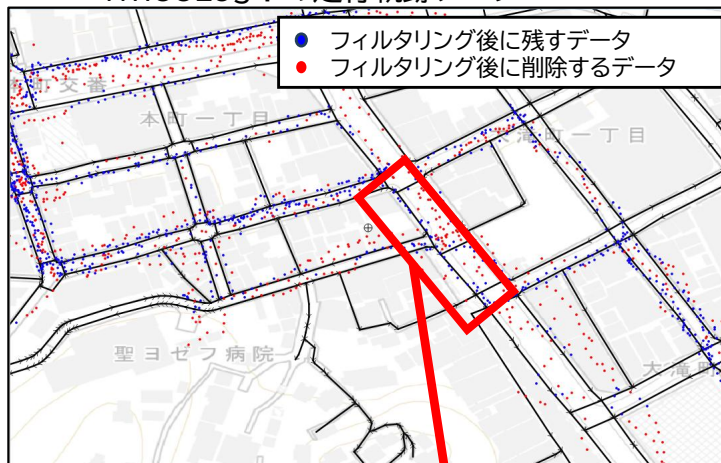
# 軌跡データの特性確認(上空視界が不良な地域)



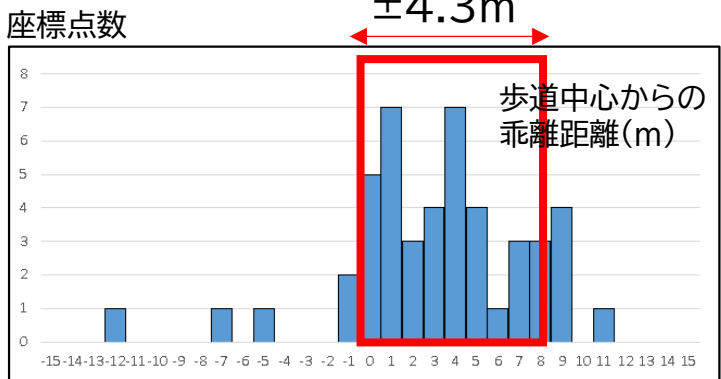
アーケードにより衛星電波受信が不良な地域における走行軌跡データの分布を確認。  
準天頂衛星対応測位機材データでも、他の機材と変わらず精度は低い。



[使用データ]  
WheelLog! の走行軌跡データ

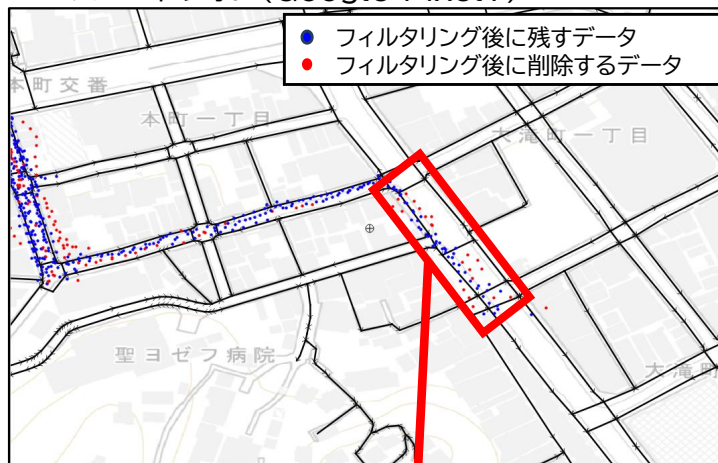


±4.3m

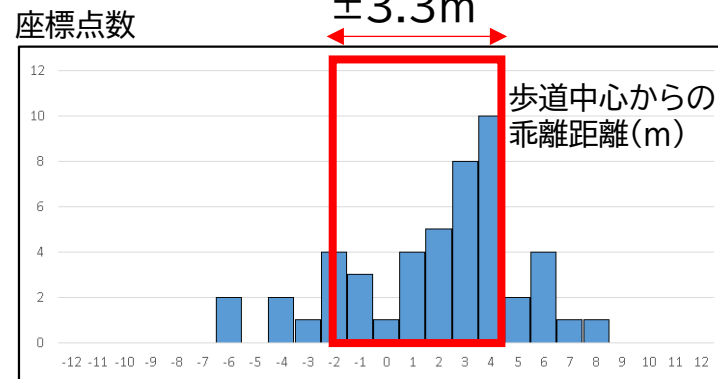


標準偏差:4.3m

[使用データ]  
スマートフォン(Google Pixel7)



±3.3m

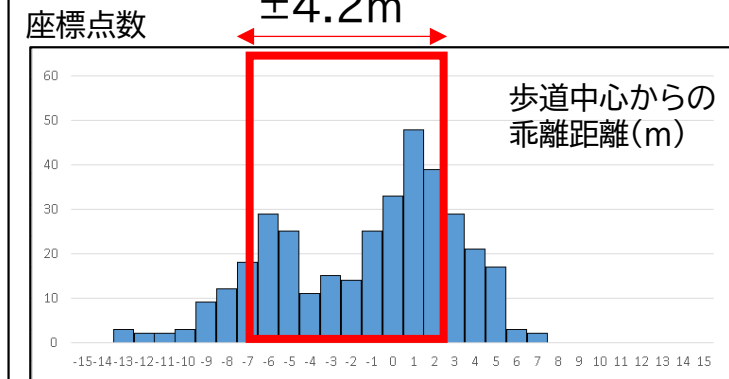


標準偏差:3.3m

[使用データ]  
準天頂衛星対応測位機材



±4.2m



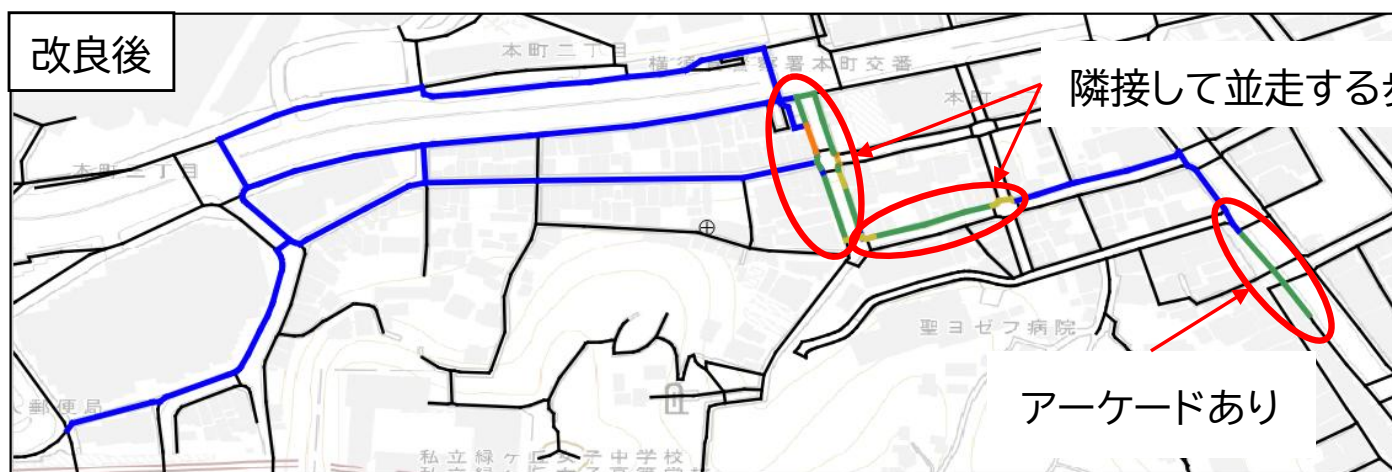
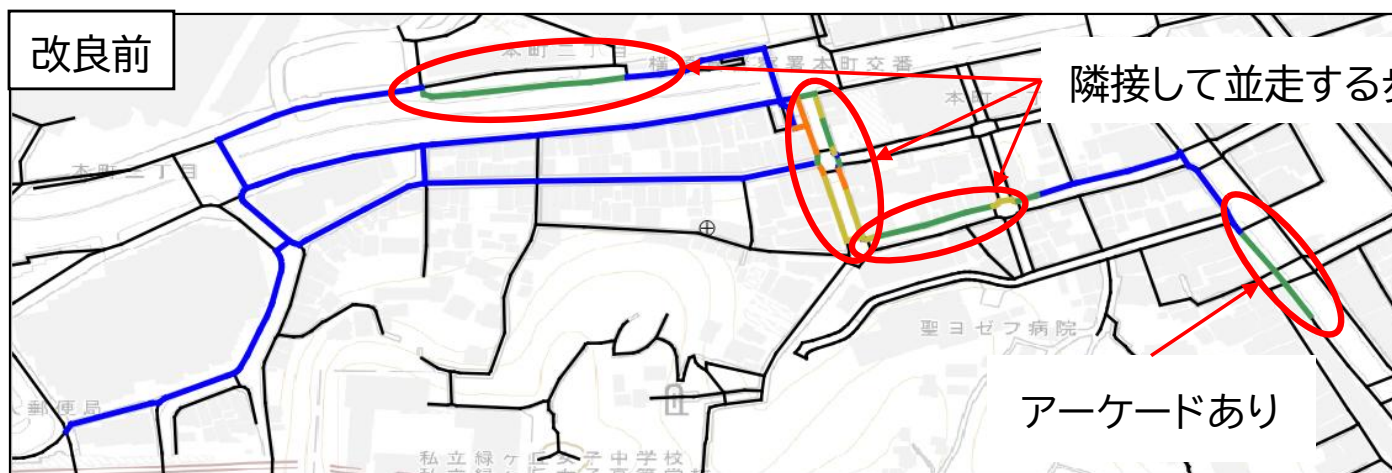
標準偏差:4.2m

# マップマッチング結果の評価(スマートフォン)



移動経路を把握している現地歩行により収集した軌跡データについて、従来手法と改良手法の2種類のマップマッチング結果の評価を実施。

- 従来手法の正解率が「82.3%」に対し、改良手法では「86.4%」に精度が向上(4.1%の精度向上)
- ただし、従来手法と同様に隣接して並走する歩道が存在する場合に誤りは残存



【凡例】 マップマッチングの正しさ	
Red	0 ~ 20%
Orange	20 ~ 40%
Yellow	40 ~ 60%
Green	60 ~ 80%
Blue	80 ~ 100%

[使用データ]現地歩行により収集したGoogle Pixel7の走行軌跡データ

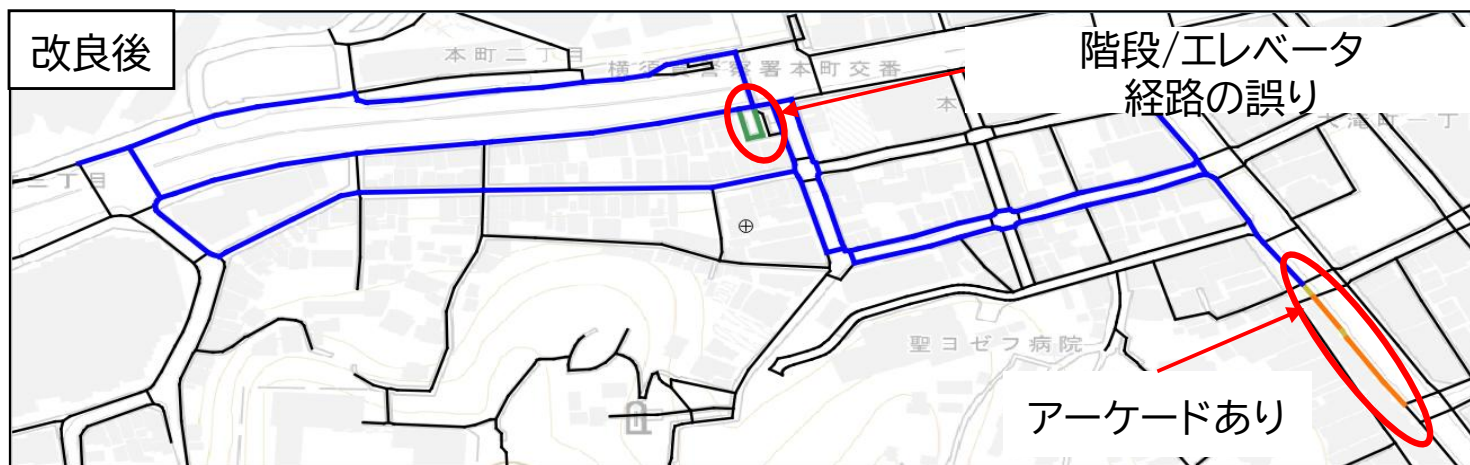
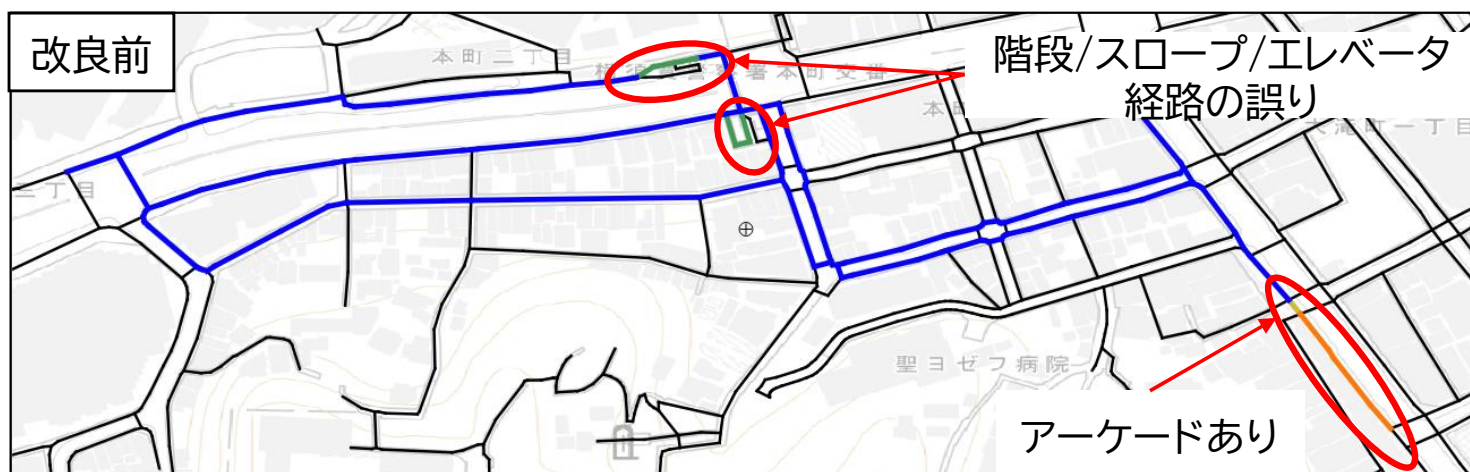
\*実際に歩いた箇所に対して、正しくマッチング出来た確率を集計して色分けで表示。

# マップマッチング結果の評価(準天頂衛星対応測位機材)



移動経路を把握している現地歩行により収集した軌跡データについて、従来手法と改良手法の2種類のマップマッチング結果の評価を実施。

- **ほとんどの歩道で正しくマップマッチングが可能**、従来手法の正解率が「94.7%」に対し、改良手法では「95.5%」
- 階段/スロープ/エレベータ等の高度差があるルートでは、形状データに高さが無く、誤り有り
- アーケード部等の上空視界が遮られた領域では、スマートフォンと同様に並走する歩道で誤り有り



【凡例】  
マップマッチングの正しさ

Red	0 ~ 20%
Orange	20 ~ 40%
Yellow	40 ~ 60%
Green	60 ~ 80%
Blue	80 ~ 100%

[使用データ]現地歩行により収集した準天頂衛星対応(CLAS)測位機材の走行軌跡データ

\*実際に歩いた箇所に対して、正しくマップマッチング出来た確率を集計して色分けで表示。

準天頂衛星対応測位機材を使用する場合、アーケードや高架下などの衛星からの電波が届かない地域等で課題は有るものの、おおむね正しくマップマッチングができ、データ整備に活用できる可能性があることを確認。

## 確認結果

## 実運用に向けた課題

### ①軌跡データ等の特性確認

- 準天頂衛星対応測位機材の取得データの特性
  - 上空視界が良好な場合、低層住宅等の隣接する歩道等では、精度が高い
  - アーケード等の上空視界不良地点では精度が低い(他の計測機材と同等)

- 高精度測位機材とスマートフォン等の取得データを分類して収集が必要
- アーケードや屋内等の電波がとどかない場所ではGNSSを利用しない測位技術との組み合わせの評価が必要

### ②マップマッチング実施

- 改良されたマップマッチング手法を適用することで、1~5%の改善を確認
- 準天頂衛星対応測位機材を用いた軌跡データは、ほぼ正しくマップマッチングが可能
- アーケードや屋内等ではマップマッチング誤りが多い

- 測位精度が悪化する高架下やアーケード等では軌跡データを利用しないデータ整備が必要
- スロープや階段、エレベータ等での誤ったマッチングがあるが、NWデータに標高値を付与した場合には解消される可能性がある

以上に加えて、多種多様なモビリティで歩行空間NWデータの整備が実現できるよう、様々な自動走行ロボット等の軌跡データを用いた技術検証も検討が必要。

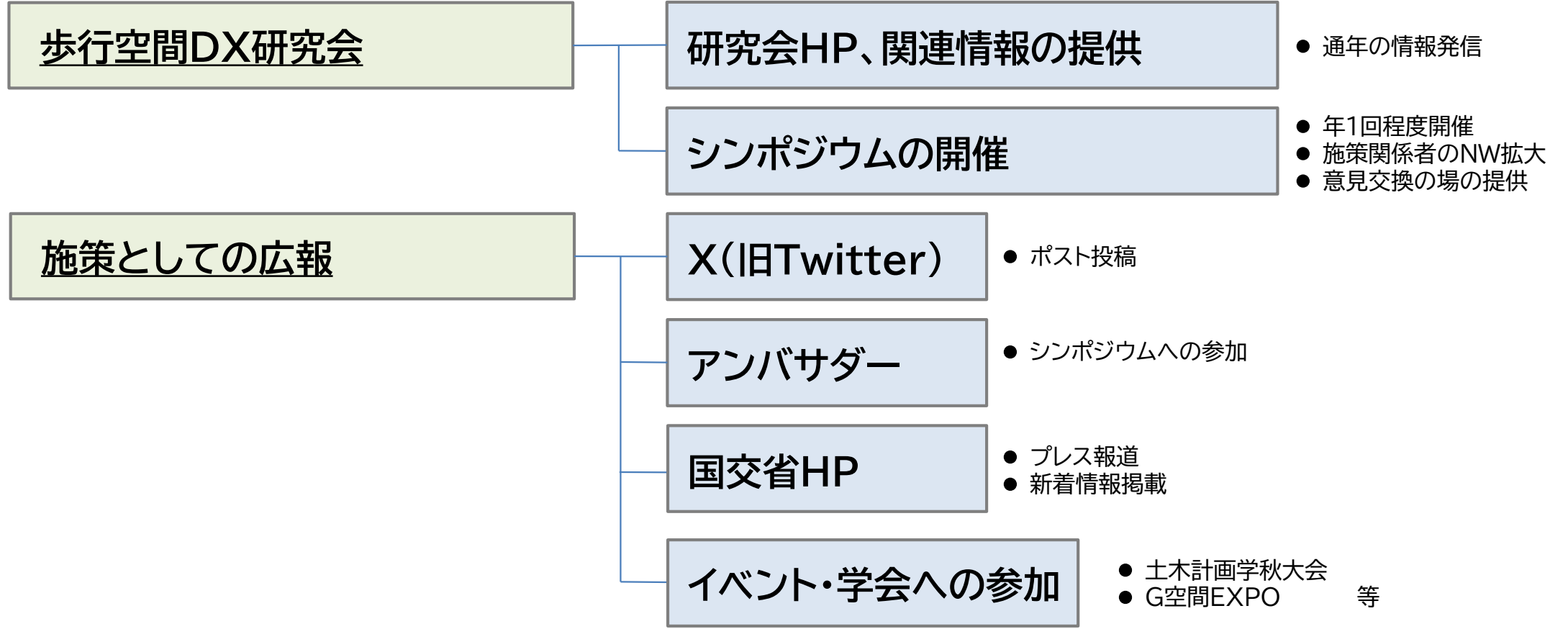


## 4. 広報活動(歩行空間DX研究会の活動等)の 実施状況の報告



- シンポジウム開催など歩行空間DX研究会としての活動を昨年度に引き続き展開。
- 自治体や民間事業者、障害者団体、一般市民を含め広く認知度を上げるため、X(旧Twitter)やHP、シンポジウムなどにより効果的な広報を実施する方針。

## 広報活動の体系フロー



- 研究会の活動として、第3回「歩行空間DX研究会シンポジウム」を令和8年1月23日(金)に開催。
- 『持続可能な移動支援サービスの普及・展開に向けて』をテーマとし、有識者、民間事業者、行政等の関係者にご登壇いただき、基調講演、取組紹介、パネルディスカッション等による意見交換・情報共有を実施。

- 第3回 歩行空間DX研究会 シンポジウム  
～「持続可能」な移動支援サービスの普及・展開に向けて～
- 開催日程：令和8年1月23日(金)9:30～11:30
- 会 場：東洋大学 INIAD／オンライン(同時配信)

## 歩行空間DX研究会シンポジウム

### 第3回

「持続可能」な移動支援サービスの  
普及・展開に向けて

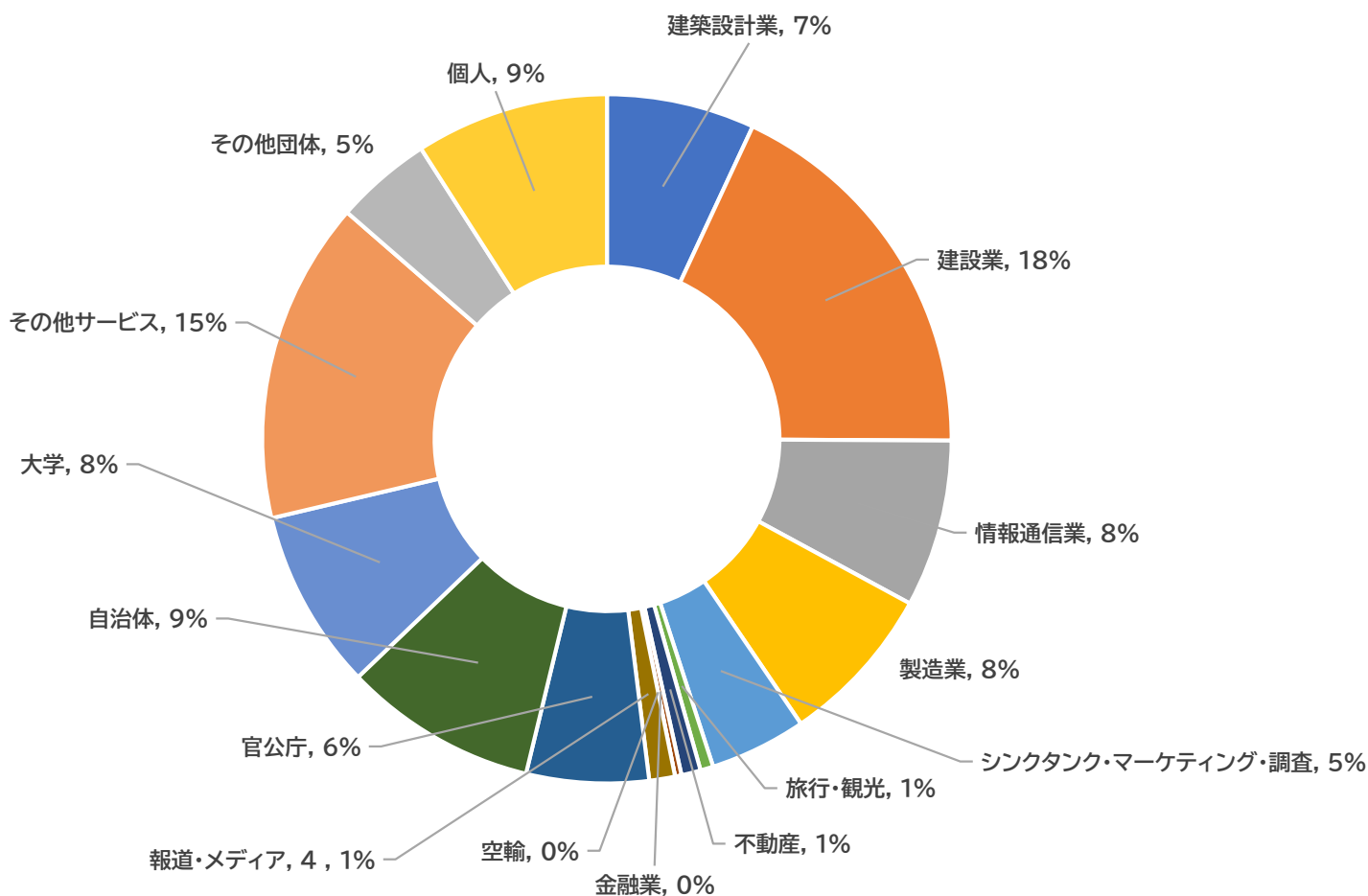


参加方法	来場	オンライン	合計
事前 申込人数	33	298	331
当日 参加人数	23	232	255

# 【参考】シンポジウム参加申込数の推移(業種別・累計)



・建設業や建築設計業をはじめ、各業種や自治体等の幅広い参加申込があった。



## 【凡例】

- 建築設計業
- 建設業
- 情報通信業
- 製造業
- シンクタンク・マーケティング・調査
- 旅行・観光
- 不動産
- 金融業
- 空輸
- 報道・メディア
- 官公庁
- 自治体
- 大学
- その他サービス
- その他団体
- 個人



開会挨拶  
国土交通省 佐々木政策統括官

研究会会長の佐々木政策統括官から歩行空間データのオープン化を推進し、多様な主体の参画による社会実装の加速に期待すると開会挨拶をした。



プロジェクト主旨説明  
東洋大学 坂村機構長

研究会顧問の坂村機構長からオープンなデータ連携と生成AIの活用により、持続可能な移動支援基盤構築の重要性についてご講演いただいた。



取組報告：歩行空間の移動支援に係るオープンデータ化・利活用促進ワーキンググループ  
東洋大学 別所教授・学科長

別所教授から歩行空間ネットワークデータや施設データの整備実証、生成AIによる属性抽出と標準化の取組とともに、ほこナビDPの公開、全国展開を見据えた普及促進戦略等についてご報告いただいた。

# 第2部 パネルディスカッション



コーディネーター:坂村機構長

第2部では、坂村機構長をコーディネーターとしたパネルディスカッションや会場からの質問も交えた意見交換が行われた。



アンバサダー 網本氏  
(ビデオ再生のみ)

当事者として最短ルートを模索する日常を語り、誰もが過ごしやすい街への願いを訴えた。



ウィーログ 織田代表理事

車いす利用者視点でWheeLog!の取組を紹介し、データ継続更新の重要性を強調した。



東京都北区 やまだ区長

高低差のある北区の課題を示し、データ活用による実効性あるバリアフリー推進への意欲を示した。



大阪府豊中市 久保課長

市内全域のバリアフリー化を紹介し、生成AI活用による維持管理の負担軽減に期待を示した。



iiba 町田氏

子育て世代の視点から情報分散の課題を指摘し、アプリ連携による外出促進を提案した。



東洋大学 別所教授

生成AIを活用した多様な支援技術を紹介し、共生社会への応用可能性を示した。



国土交通省 鈴木氏

歩行空間NWデータを公共基盤と位置付け、自治体参画を促す国の役割を示した。

シンポジウム参加者を対象に歩行空間DXの取組についてアンケート(自由記述)を実施。歩行空間DXの取組自体は高く評価する声が多く、今後はデータ更新の持続性確保、部局横断連携や面的展開、地方への拡大、AI活用による効率化などを求める意見が目立った。

## 「歩行空間DXに関する取組について、良い点や今後に向けた改善点を自由にご記入ください」(抜粋)

DXを取り入れた安全・快適な歩行空間の実現に向けて、社会実験を取り組まれていることが良い点であると感じた。多種多様な方が利用する公共空間にも汎用できる技術ではないかと思った。

今後に向けた取り組みとして、海外の利用者が多い東京駅・秋葉原駅周辺などでも歩行空間DXを取り入れることも検討すべきではないかと感じた。社会実験を行うことは難しい場所ではあるが、海外の人にとっても安全・快適な歩行空間の提供が必要ではないかと思う。

生成AIを使った多目的トイレの活用については凄く良いと思った。今後は、点としてつながるような取り組みが進んでいけばもっと良いかと思う。

歩行空間DXが進むとバリアフリーを進めやすいと考えるが、どの様に把握するかがやはり課題であり、特に地方都市では人手が居ない。AIの活用は特に重要だと考える。

データの保管や更新について持続可能な方法の検討は今後も検討いただき共有いただけると大変勉強になります。

だれもがきがるに出かけられるまちづくり、サステナブル・地域プレーヤー、ユーザービリティ、iiba子育てインフラ、アプリを通じ社会をサポートする。AIを使ってトイレのバリアフリーせつび情報、視聴覚を理解できるようになるために、デジタル・AI技術を活用する必要である。

かなりの情報が自治体等から発信されていることがわかりました。自治体内でも部署によって独自のデータ、情報源を抱えているのでそれらを横の連携をDXを用いて活用できればと感じた。やはり情報の更新が課題であると再認識しました。

今回は大都市における取組の紹介にとどまったが、地方都市において公共交通のバリアフリー化を重点的に進める必要性を感じた。自身、公共交通の改善・利用促進の市民活動をしており、バリアフリー情報の収集整理とそれに基づく改善プロジェクトに取り組みたいと思う。

作った公共空間データが最新に更新される仕組みづくりをぜひよろしくお願いします。

色々な方が参画していることを知りました。持続的にデータをを整備するには費用が掛かるかと思えます。そのためには属する企業の理解が不可欠であると感じました。今後も今回のようなシンポジウムを開催して頂くことをお願い致します。

研究会シンポジウムを通じて、多くの方がこの取組に参加して下さるようになることを期待しています。ESG経営など、今まで以上に地域貢献を行うことを重視している企業が増えてきていると思いますので、追い風として利用できると良いなと思いました。

歩行空間DXの取組は、バリアフリー情報の可視化や人流解析による利便性向上が素晴らしい点である。今後は、屋内・屋外を繋ぐ測位精度の向上やリアルタイムな情報更新、多感覚な案内など、誰もが使いやすい環境の構築が改善点として挙げられる。

歩行空間DXというものを今回初めて知りましたが大変興味深く勉強になりました。正に官・学・民が協働して取り組んでいて、それぞれの立場からの意見を聞き、持続的に取り組む重要性を感じました。



「歩行空間DX研究会」ホームページを継続的に運営。研究会メンバーの参加フォーム、ワーキンググループの活動状況報告、独自の取材記事、現地実証の様子等を提供。また、シンポジウム開催に合わせて、シンポジウム案内ページへ遷移するためのバナーを掲載した。

## 歩行空間DX研究会ホームページ

## ワーキンググループ活動報告

R7年度：3件

## 独自取材記事の発信

R7年度：14件

## 研究会員用の特設ページ

シンポジウムのアーカイブ動画の視聴等、会員限定の特設ページの作成による参加申込の促進

### 第3回「歩行空間DX研究会シンポジウム」アーカイブ

開催日時：2026年1月23日（金）9:30～11:30



第3回「歩行空間DX研究会シンポジウム」YouTubeアーカイブ動画等を研究会員向けに限定公開

## メーリングリストを活用した情報提供・共有

R7年度：約35通

### 研究会員への情報提供



例)シンポジウム開催時や国交省プレス、独自取材記事作成時に発信

### 研究会員同士の情報共有

会員登録することで、研究会員全体にメールを発信することができるメーリングリストが使用可能に。

⇒ 会員から研究会員全体にメーリングリストを用いて情報を発信・共有

#### 投稿例①

歩行空間DX研究会のみなさま  
 ○○についての取り組みを紹介します！  
 詳細は添付ファイルをご覧ください。  
 ご興味のある方は下記までお問い合わせください！  
 (問い合わせ先)  
 ○○株式会社 担当○○  
 連絡先 ○○@○○.ne.jp  
 =====  
 送信者 ○○太郎

取り組みの紹介など

#### 投稿例②

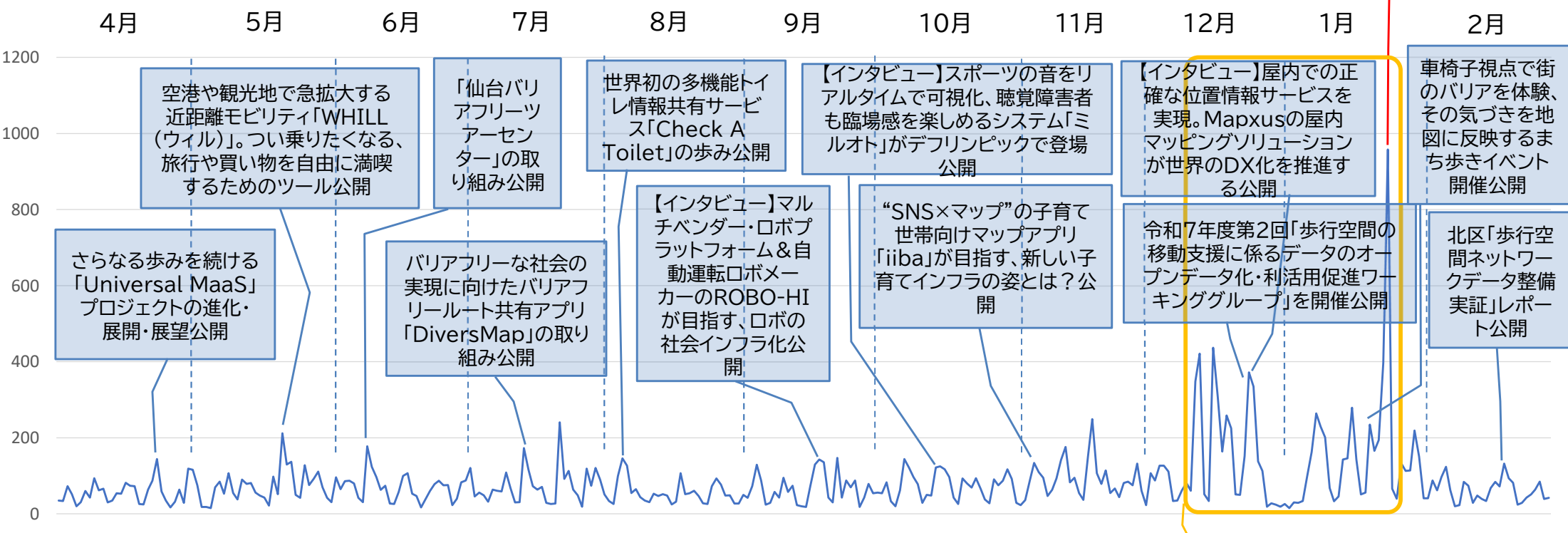
歩行空間DX研究会のみなさま  
 こんな事を行っているようです。  
 ○○について興味深い情報を見つけました。  
 PDFでチラシを添付しましたのでご確認ください。  
  
 チラシ  
 =====  
 送信者 ○○太郎

関連分野の情報など

今年度も取材記事公開のタイミングでアクセスが伸びる傾向がある。また、シンポジウムの広報期間から開催時期(12月中旬から1月下旬)にかけて、アクセス数が増加している。特にシンポジウム関連のページや申込ページへのアクセスが伸びた。

## 〈研究会HPへのアクセス数推移〉

第3回シンポジウム開催

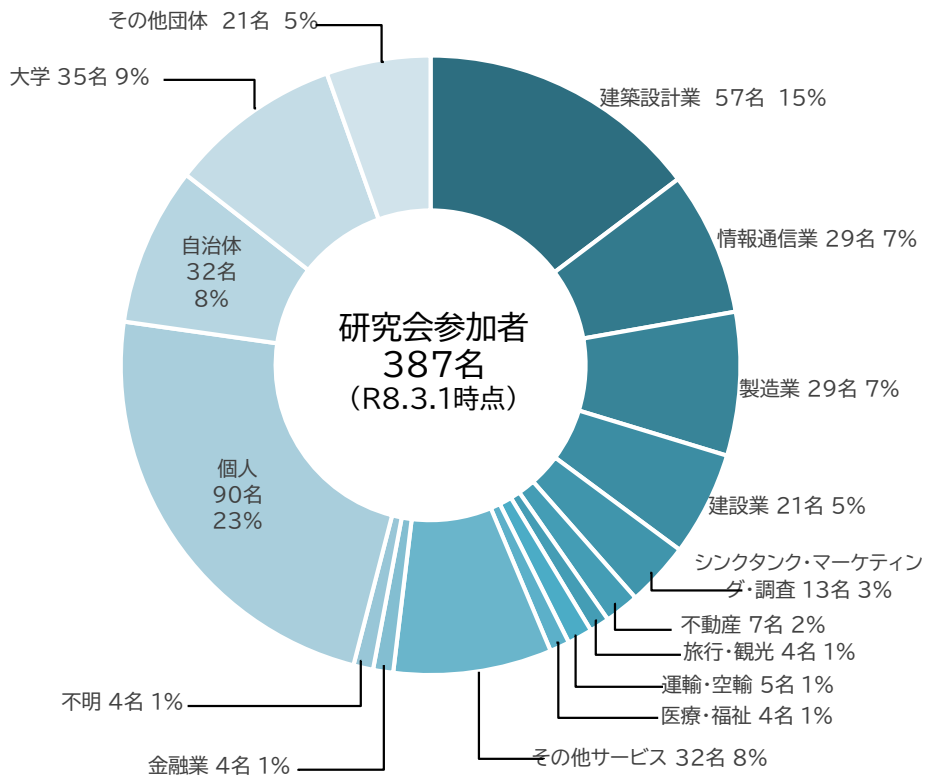


シンポジウム参加申込の受付期間中、申込数が最も多かったのは12/12と12/23でアクセス数は421PVと372PV。アクセス数が最も多かったのはシンポジウム当日の1/23で958PVだった。

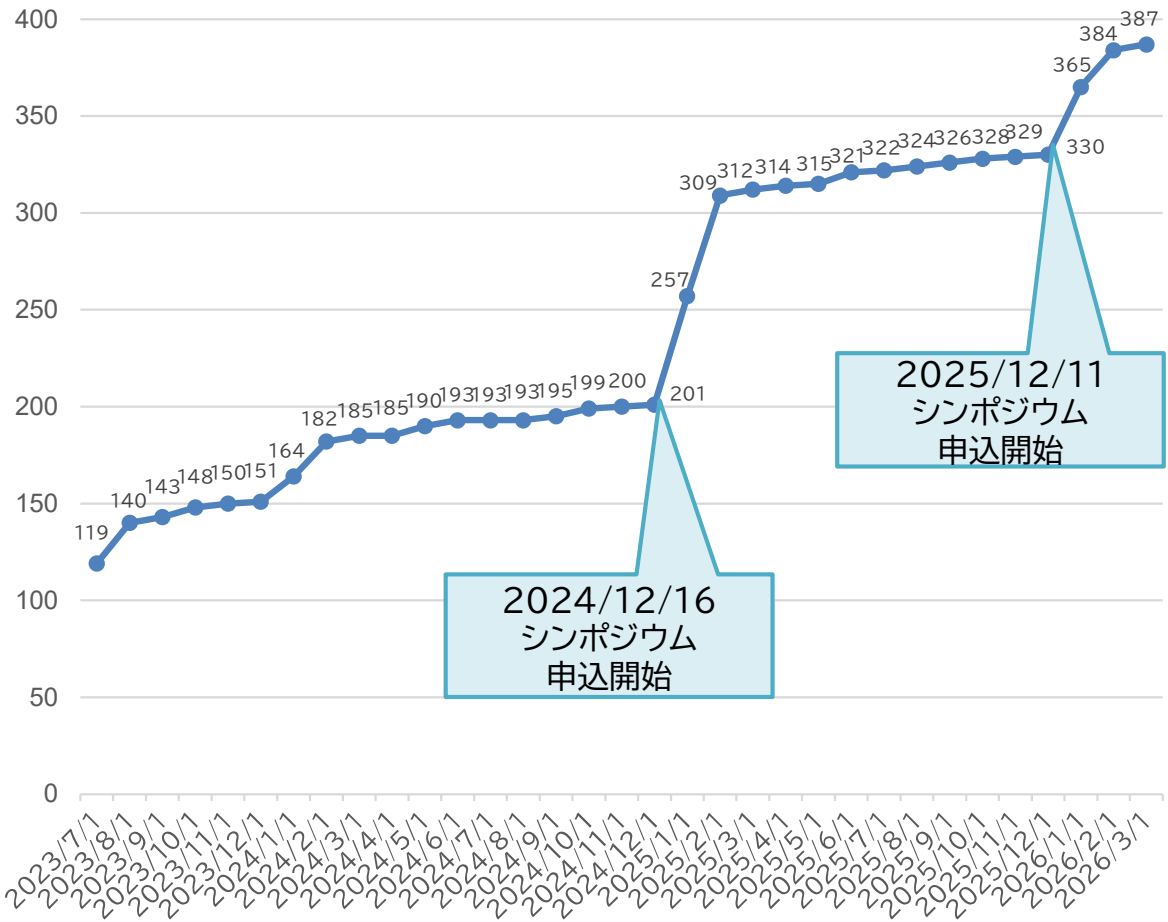


- 研究会の所属別分類では、民間企業、個人に次いで自治体が多い。
- シンポジウム開催時期に研究会参加登録者が特に増加。シンポジウム参加申込時に研究会参加に関する意向をあわせて確認。

参加登録者の分類



研究会への会員申込み数推移(月ごとの集計)

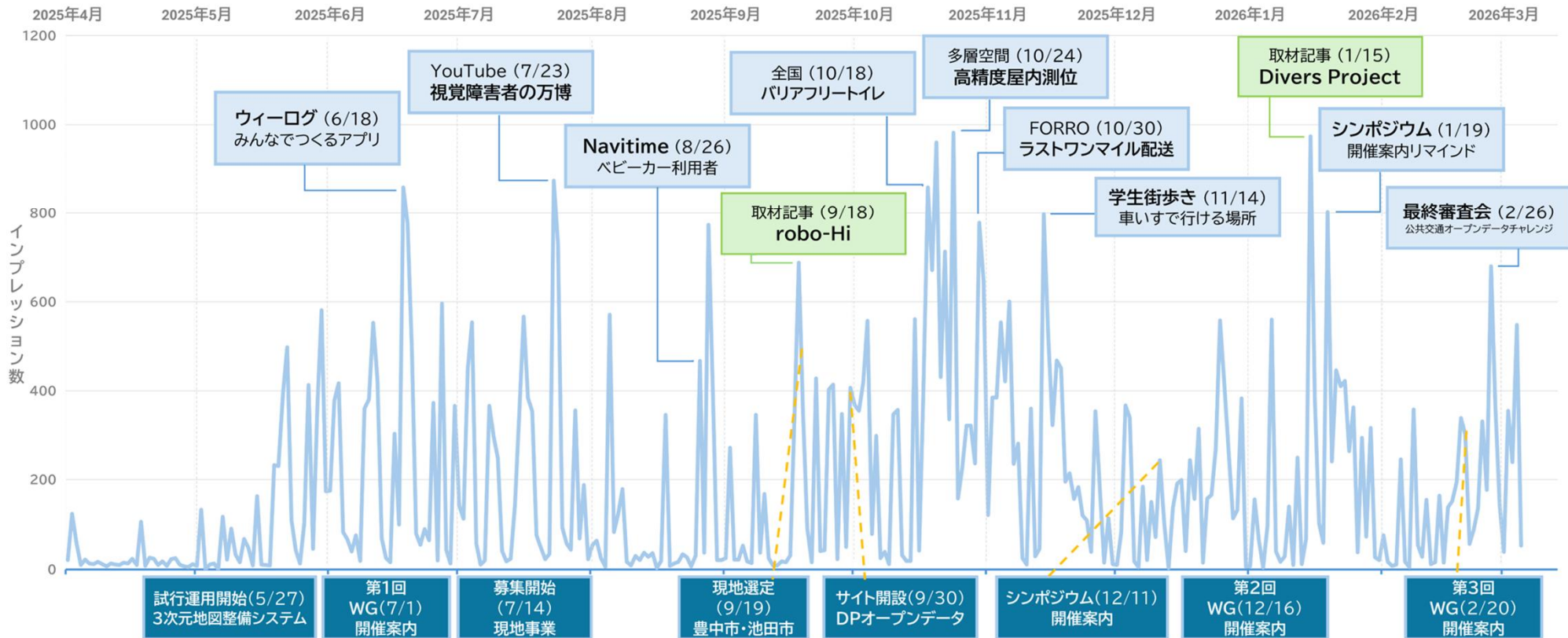


\* 研究会への参加は、本研究会の目的の実現に意欲的な個人として募集  
 \* 集計は、2026年3月1日時点の参加登録の状況を踏まえて実施

# X(旧Twitter)を活用した広報活動



継続的な情報発信とともにインプレッション数は増加。特に6月と9月は投稿の頻度を高めたことでリポスト数やいいね等の反応が増加し、ワーキンググループやシンポジウム等の活動報告との相乗効果でフォロワー数を伸ばしている。



## 〈月別の投稿 集計結果〉

インプレッション数、いいねの増加に応じてフォロワーが増加

集計月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
フォロワー数	284	285	287	290	295	295	298	304	306	307	307	307
新規投稿数	0	5	9	6	2	7	5	3	4	4	4	1
リポスト数	1	9	18	13	10	5	8	8	13	10	6	1
いいね数	0	18	23	18	10	13	16	10	16	9	12	2
インプレッション数	675	3,959	7,316	6,758	3,513	4,728	11,564	7,711	5,343	6,685	4,285	1,234

リポスト数・投稿を他ユーザーが引用し、再投稿した回数

いいね・投稿が他ユーザーのお気に入りに登録され、共感を示された回数

インプレッション…投稿が他ユーザーの画面に表示された回数 **41**



## 継続投稿による表示回数増加

### 最新情報の積極的発信: 移動支援の高度化とDX

WG事業者の最新動向や、社会インフラとしての進展を共有する。

バリアフリーマップ

移動支援

自動配送ロボット



### 取材記事・引用リポストをきっかけに表示回数の上昇

フォロワーの多いユーザーからの「リポスト」や「引用リポスト」による認知度の増加、他ニュースソースとの相乗効果を期待。

活動報告

取材記事

引用リポスト



## 固定ポストによる周知

通常時

期間限定



研究会メンバー募集



シンポジウム広報期間

表示回数の増加  
フォロワーの増加

注目度の高い投稿を最上段に固定することでインプレッション数が伸び、また、アカウントページのフォローボタンへアクセスしやすいことでフォロワー数増加につなげる。

## 土木計画学秋大会

2025年11月に開催された土木計画学秋大会にて、WGでの議論内容等を口頭発表



## G空間EXPOへの出展

2026年1月28日～30日に東京ビッグサイトで開催されたG空間EXPOで展示ブースを出展

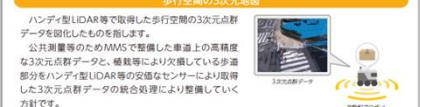
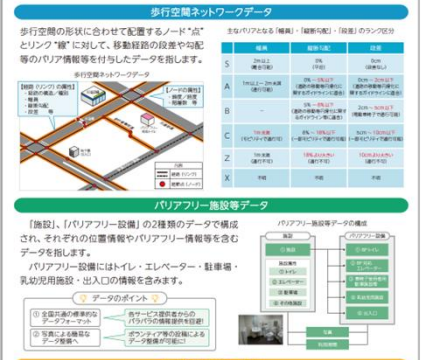


### 歩行空間ナビ・プロジェクトとは？

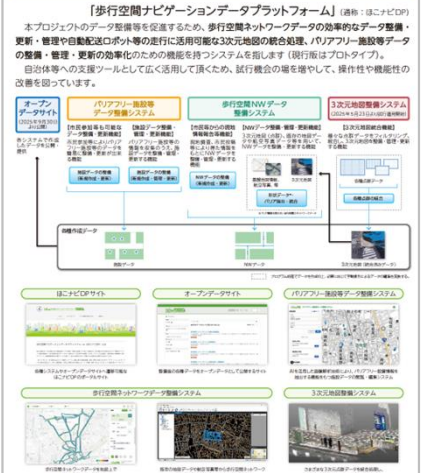
「歩行空間における移動支援サービスの普及・高度化」の達成  
 ・誰もが自律的に安心して移動できる社会の実現を、ICTの活用によって早期に目指しています。  
 ・具体的には、車椅子利用者やベビーカー利用者が移動の際に必要な情報となる、段差を避けた経路検索・案内やバリアフリー施設情報提供等の多様なサービスが、アプリ開発者等を行う民間事業者等から提供される環境を目指すものです。  
 ・このため、歩行空間を利用する人やロボットの様々なニーズに対応した各種データの整備やオープンデータ化が自治体等により促進されるよう、データ整備仕様やデータ整備支援ツールの提供等を図り実施しています。



### 人やロボットに必要なデータとは？



### データ整備を促すための工夫とは？



### データの利活用に向けて



### 今年度の取り組み（現地実証等）



# (参考)インプレッション数上位の投稿内容(4月~2月)



	投稿内容	リポスト (リツイート)	いいね	インプレッション	投稿月	ポスト (ツイート) 画像
1	<p>🔥第3回「#歩行空間DX研究会シンポジウム」開催！(1/23(金)9:30~)</p> <p>持続可能な移動支援サービスの普及・展開に向けて、有識者・民間事業者・行政等の関係者による意見交換・情報共有を行います。参加申込はこちらから👉</p> <p><a href="https://walkingspacedx.go.jp/symposium2025/">https://walkingspacedx.go.jp/symposium2025/</a></p> <p>#国交省 #バリアフリー</p>	8	4	2,371	12月	
2	<p>新たな機能により地域の事業者や自治体も参加、みんなで作る「地域の」バリアフリーマップに！🗺️ 多様な方々の安心・安全な移動への寄与が期待されます。</p> <p>#バリアフリー #移動支援 #防災</p>	6	11	2,100	6月	
3	<p>視覚に障がいのある方に万博を楽しんでもらおうと、実際に最新技術を体験された方々の様子が紹介されています👉</p> <p><a href="https://www.youtube.com/watch?v=mwAhVZwffhQ">https://www.youtube.com/watch?v=mwAhVZwffhQ</a></p> <p>#バリアフリー #移動支援</p>	4	5	1,517	7月	
4	<p>#車いすで行ける場所📍</p> <p>一緒にまち歩きをすることで段差や勾配、道の表面などに気づかされること、ありますね👉</p> <p>#バリアフリー #移動支援</p>	2	4	1,418	11月	
5	<p>先日ご紹介しました自律型ナビゲーションロボット「AIスーツケース」が万博に登場！障害の有無を問わず実用化に向けた実証実験に参加できるようですので、ご興味のある方はぜひ体験してみてください👉</p> <p>#バリアフリー #移動支援</p>	2	4	1,177	5月	
6	<p>目が見える人も見えにくいひとにも共有出来る立体地図🗺️</p> <p>ユニークなアイデアが生まれています👉</p> <p>#バリアフリー #移動支援 #オープンデータ</p>	2	3	989	6月	
7	<p>交通空白地域に新たな選択肢👉</p> <p>買い物や散歩などの外出を気軽に楽しめる！歩行領域モビリティについてのご紹介です👉</p> <p>#バリアフリー #移動支援</p>	1	4	978	9月	
8	<p>全国及び地域別バリアフリートレマップについて紹介されています。外出の不安を和らげることができるとよいですね。</p> <p>#バリアフリー</p>	2	1	966	10月	